

第6章 炭化種子から見た農耕生産物の推定

大谷 弘 幸

1 炭化種子検出遺跡と遺構の概要

原始・古代の農耕技術や農耕内容の実体を明らかにするには、水田跡や畠跡といった遺構から見た側面、農具などの道具から農耕技術を類推する方法などがある。しかし、これら考古学的資料のみでは実際にどのような植物が栽培されていたのか、当時の人々の生活においてどれくらい農耕生産物に依存していたのか、また、地域ごとの生業や食生活の違いなどの諸問題について、必ずしも直接的な資料を提示するものではない。

近年、原始・古代において実際どのような作物が作られ、食されていたのかについての関心が高まりつつある。当時の作物品種や生産高・人間の摂取量などの推定にあたっては、遺構から検出されるプラントオパールや花粉などの微化石分析から推定する方法や出土人骨中の炭素と窒素の同位体比の測定から食糧構成を復元するアイソトープ食性解析法、炭化種子などの食料残渣から推定する方法などがあげられる。このうち本節では千葉県内でも比較的検出例が多い炭化種子について集成し、当時の農耕生産物やその依存率について推定することとしたい。

なお、今回集成の対象としなかった縄文時代の炭化種子については、かつて小澤清男氏が集成を行っている¹⁾。それによると県内最古の炭化種子は、成田市木ノ根拓美遺跡6号竪穴状遺構出土の縄文時代早期のクルミ、キハダであった。また、最近の市原市武士遺跡の調査では縄文時代中後期の8軒の竪穴住居跡からオニグルミを主体とした炭化種子が出土するなど、徐々に資料の蓄積が認められる。

全国的にみると、ウォーターセパレーション法の普及によって縄文期の炭化種子検出事例も増加し、北海道函館市中野遺跡のヒエ（縄文時代早期）や青森県八戸市風張遺跡のアワ・キビ（縄文時代後期）、福井県三方郡三方町鳥浜貝塚のアズキ（縄文時代前期）をはじめ縄文時代に畑作を中心とした農耕が行われていたことを示す資料が蓄積されつつある²⁾。また、イネに関しても縄文時代前期の岡山県岡山市朝寝鼻貝塚におけるプラントオパールの検出を最古として、縄文時代中期以降西日本を中心として炭化種子や土器胎土中のプラントオパール検出などが多く報告されるようになった。このほか青森県青森市三内丸山遺跡のクリのDNA分析（縄文時代前期から中期）からはクリの栽培化も指摘されている³⁾。しかしながら本県では、成田市荒海貝塚出土の土器からプラントオパールが検出されたのが最古の栽培植物遺体であり、現在のところ縄文期に農耕が行われていたことを裏付ける証拠は得られていない。

県内における炭化種子検出遺構の集成は、弥生時代から中世を対象に行った。その結果53遺跡220遺構で炭化種子の出土をみ、内訳は弥生時代中期4遺跡15遺構、後期10遺跡32遺構、古墳時代前期7遺跡13遺構、中期5遺跡9遺構、後期13遺跡35遺構、古代16遺跡88遺構（グリッドサンプル含む）、中近世11遺跡23遺構、時期不明2遺跡5遺構であった。

しかしながら各遺構における炭化種子の検出方法については、通常の発掘作業の過程において偶然出土したものを報告書に掲載する場合は圧倒的に多く、炭化種子の検出を目的とした土壌サンプリング、ウォーターセパレーションなどを実施し炭化種子を検出した例は極めて少ないと言える。また、出土地点についても明示していない報告書が多い。ここでは、県内において明確に農耕の痕跡が認められるようになる、

弥生時代から古代にかけて炭化種子を検出した遺跡の概要を示すとともに、出土地点が明らかな資料については可能な限り図示することとした⁴⁾。

1. 城の腰遺跡 千葉市若葉区大宮町に所在する。都川左岸標高約23mの台地上に立地し、低地部との比高差は約13mを測る。弥生時代中期から古墳時代中期を中心とした集落と墓域で弥生時代中期の竪穴住居跡を66軒検出した。弥生時代中期宮ノ台期の037号・091号・092号・142号住居跡から炭化種子が出土している。焼失住居である037号跡では北側の柱穴と炉の間からクリと思われる種子が出土した。この種子は上下を壺の破片に挟まれた状態で検出されていることから、本来この壺に納められたものと考えられる。また、このほかに3種類の炭化種子が出土している。091号住居跡では炉の南側、142号住居跡では住居南側から炭化種子が出土したほか、092号住居跡では炉と北側柱穴の間からアワと思われる炭化種子塊が出土したが、専門的な種子同定が行われていないため樹種等は不明な点が多い。

2. 市原条里制遺跡 市原市市原字一ノ坪に所在する。東京湾に面した標高約5mの沖積低地上に立地している。弥生時代の水田跡、奈良平安時代から中世、近世へと継続する水田面を複数検出した。このうち並木地区に所在する弥生時代中期の溝、S D-008からイネと思われる炭化種子塊2点が出土した。また、市原地区4区の中近世の水田耕土中からも同様の炭化種子塊1点が出土した。なお、専門的な種子同定は行われていない。

3. 常代遺跡 君津市常代字五反歩に所在する。小糸川左岸に面した標高約16mの低位段丘上に立地している。弥生時代中期から奈良平安時代を中心とした墓域・集落で71軒の竪穴住居跡を検出したほか、弥生時代中期の方形周溝墓群と木製品を大量に含む溝を検出した。弥生時代中期の大溝S D-220からは65種の可食植物が検出されたほか炭化したイネ塊が2点出土している。このイネ塊には外穎の付着が認められた。同じ中期の方形周溝墓S Z-119の溝覆土から約200粒の外穎を含むイネが出土した。また、古墳時代後期の土坑S K-53からムクロジ、古墳後期から奈良時代の溝S D-70からカヤ、イヌガヤ、オニグルミ、イチイガシ、ムクロジ、トチノキ、エゴノキ、奈良時代の井戸S K-53からモモ、S K-118からウメ、マクワウリ、平安時代の土坑S K-161からモモ、スモモが検出された。なお、種子の同定は百原新氏が行った。

4. 滝ノ口向台遺跡 袖ヶ浦市吉野田字寺原に所在する。小櫃川左岸標高約48mの台地上に立地し、低地部との比高差は約28mを測る。弥生時代中期・後期の集落と古墳時代初頭の墓域からなり、弥生時代の竪穴住居跡を32軒検出した。これら住居跡のうち遺存状態の良好な19軒（中期6軒、後期13軒）について、炉の覆土を1mmメッシュの篩いを用いてウォーターセパレーションを行った。その結果中期では合計イネ4粒、ミレット状種子（イネ科雑穀類似）1粒、アブラナ科アブラナ属の可能性のある円形種子2粒が確認された。また、後期では合計イネ27粒、ミレット2点が出土した。いずれのイネも籾の付着は見られなかった。このほか中期の壺形土器9点の土器内土壌のうち5点でイネが、1点でクルミまたはモモの核破片、別の1点から円形種子が出土した。これらの多くは土器の埋没過程において炭化種子が混入したものと考えられる。なお、炭化種子の同定は松谷暁子氏が行った。

5. **本名輪遺跡** (第84図) 君津市坂田字本名輪に所在する。畑沢川左岸で東京湾に面した標高約7mの段丘上に立地した弥生時代後期の集落で、竪穴住居跡8軒を検出した。このうち弥生時代後期初頭の7号住居址から炭化米がまとまって出土した。資料の採集方法は不明であるが炭化米は炉の南東部分の0.9m×0.7mの範囲にガラス小玉4点と共に出土し、粒数は約70粒(写真から判断)である。なお、専門的な種子同定は行われていない。

6. **境遺跡第2次調査** 袖ヶ浦市下新田字白幡に所在する。小櫃川右岸の沖積低地を臨む標高約30mの台地上に立地し、低地部との比高差は約20mを測る。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落と墓域で竪穴住居跡38軒、方形周溝墓4基を検出した。弥生時代後期に属する50号・57号・59号・61号・76号・78号・82号の7軒の住居炉から合わせて17粒の炭化米と5点の種子状炭化物を検出した。また、古墳時代前期に属する58号・62号・67号の3軒の住居炉から、合わせて5粒の炭化米と2点の種子状炭化物を検出した。これらはすべて竪穴住居内の炉覆土(焼土)を水洗して検出したものである。なお、専門的な種子同定は行っていない。

7. **郡遺跡** 君津市郡字下赤磯に所在する。江川左岸に面した標高約17mの低位段丘上に立地している。古墳時代後期の豪族居館跡を検出したほか溝などが多数検出された。弥生時代後期から中近世にいたる35遺構について、発掘調査段階で出土した炭化種子を同定した。その結果13種の可食植物が確認された。なお、種子の同定は百原新氏が行った。

8. **下向山遺跡** (第84・85図) 袖ヶ浦市高谷字下向山に所在する。小櫃川中流右岸標高79mの台地上に立地し、低地部との比高差は約50mを測る。縄文時代から古墳時代前期にかけての集落遺跡で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡を59軒検出した。弥生時代後期に属する33号住居址、41号住居址、43号住居址から炭化種子が出土している。3遺構いずれもが焼失住居であり、炭化種子は調査過程で検出されたものでブロックサンプリング等を行われていない。33号住居址では中央南西部の床面に近い焼土中から完形・半完形併せて136粒のカシ類が出土している。41号住居址では南西コーナー付近で横転した完形の小型壺(2)から37粒、同じコーナー部分の床面に近い炭層2か所でそれぞれ3粒と1粒のカシ類が出土した。43号住居址では南コーナー付近の0.5m×0.8mの範囲から201粒のカシ類が出土した。これら3住居から出土した炭化種子は、いずれも形状からイチイガシの可能性が高いと思われるが断定はできない。すべての出土炭化種子には殻斗が認められないことや41号住居址の壺内からカシ類が出土したこと、さらに41号住居址以外でも出土場所がまとまっており、当時の人々がドングリを食料として採集保存していたことを物語っている。なお、種子の同定は松谷暁子氏が行った。

9. **東峰御幸畑西遺跡** 成田市東峰字御幸畑に所在する。香取川に開析された支谷最奥部の標高約40mの台地上に立地し、低地部との比高差は約10mを測る。弥生時代後期と奈良平安時代を中心とした集落で弥生時代後期18軒、奈良平安時代8軒の竪穴住居跡を検出した。弥生時代後期の15号・19号・21号住居の覆土中から炭化種子が出土した。15号住居ではイネ、ハルタデ、シイ・カシ類が、19号住居ではシイ・カ

シ類、21号住居ではハルタデが出土しているが、数量・出土状態は不明である。種子の同定はパリノサーヴェイ株式会社が行った。

10. 野尻遺跡 銚子市野尻町に所在する。利根川右岸に面した標高約50mの台地上に位置し、低地部との比高差は約41mを測る。弥生時代後期と古墳時代後期の集落で、弥生時代後期10軒、古墳時代後期47軒の竪穴住居跡を検出した。弥生時代後期の第11号住居址では、中央部の炉を中心に覆土下層から床面にかけて212粒の炭化米を検出した。同じく弥生時代後期の第37号住居址でも、住居中央部の覆土中から床面にかけて336粒の炭化米が出土した。このほか、古墳時代後期の第5・7号住居跡のカマド内からも、それぞれ9粒と25粒の炭化米が出土した。なお、出土炭化米については粒径計測が行われているものの、専門的な分析・同定は行われていない。

11. 田子台遺跡 安房郡鋸南町下佐久間字田子台に所在する。佐久間川左岸標高約75mの台地上に位置し、低地部との比高差は65mを測る。弥生時代後期を中心とした集落遺跡で、2号住居址の床面上で押しつぶされた土器内からシイ・カシ類が出土している。なお、分析・同定は行われていない。

12. 中郷谷遺跡 木更津市請西字中郷谷に所在する。矢那川下流左岸標高約20mの緩斜面に立地し、低地部との比高差は約5mを測る。弥生時代後期から奈良時代にかけての集落遺跡で、弥生時代後期146軒、古墳時代中期58軒、奈良時代9軒の竪穴住居跡を検出した。このうち弥生後期の焼失住居、035号址において南東壁近くの床面上から出土した壺内よりイネ14粒とキビ22.5グラムが出土した。壺は正位状態で出土し、胴部上半を欠失していた。イネ・キビはいずれも穎が残存しており、壺内に貯蔵されていたと考えられる。種子同定は松谷暁子氏が行った。

13. 谷ノ台遺跡 袖ヶ浦市神納字谷ノ台に所在する。小櫃川中流右岸標高32mの台地上に立地し、低地部との比高差は約27mを測る。縄文時代から奈良平安時代にかけての集落と墓域で、弥生時代後期6軒、古墳時代前期7軒、中期1軒の竪穴住居跡を検出した。このうち弥生時代後期SI021の炉覆土をウォーターセパレーションした結果、炭化粉（穎）1点と炭化米（胚乳）1点を検出した。種子同定は新山雅広氏が行った。

14. 阿玉台北遺跡 小見川町五郷内字立山に所在する。黒部川右岸標高約49mの台地上に立地し、低地部との比高差は約26mを測る。弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした集落遺跡である。古墳時代前期に属する5軒の住居跡から炭化種子が出土している。このうち005B号址では炉と考えられる中央やや北側のピット内から、023D号址では南西コーナー付近から、041号址では住居南側から炭化種子がまとめて出土している。023D号址出土のものがマメ類と見られるほかはイネと考えられる。専門的な分析・同定は行われていない。なお、005B号址、041号址出土の炭化米については長幅比計測表が示されている。

15. 国府関遺跡 茂原市国府関字中橋に所在する。豊田川の支流に面した標高約18mの微高地上に立地する。古墳時代前期初頭の集落と墓域・自然流路を検出し、自然流路からは大量の土器類と共に木製品が

多数出土した。このうち007流路について15か所のブロックサンプリングを行い、種子を含む大型植物化石群の分析を行った。その結果、寺沢氏の示す可食植物のうち44種の種子・葉等を検出した。このうちイネは76点出土したが外穎の炭化しているものが多く、人間が故意に流路に投棄したものと考えられる。なお、分析は百原新氏が行った。

16. 東寺山石神遺跡 千葉市若葉区東寺山町に所在する。葭川分流地点に近い標高約29mの台地上に立地し、低地部との比高差は約20mを測る。弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした集落と古墳時代中・後期の古墳群で、総数60軒の竪穴住居跡を検出した。2号住居址は古墳時代前期の焼失住居で、西コーナー付近の覆土中から稲藁とともに炭化米241粒とダイズ5粒が出土した。イネの分析を行った佐藤敏也氏によれば炭化米中には穎を有するものがみとめられ、出土状態から稲束として保存していたものが焼失したものと考えている。また、長幅比の計測から日本型の短粒種であるとしている。なお、ダイズの同定は大橋広好氏が行った。

17. マミヤク遺跡 木更津市小浜字マミヤクに所在する。烏田川と畑沢川に挟まれた標高約40mの台地上に立地し、低地部との比高差は約30mを測る。弥生時代後期から奈良時代にかけての集落で、弥生時代後期89軒、古墳時代前期78軒、中期41軒、後期59軒、奈良時代8軒の竪穴住居跡を検出した。このうち古墳時代前期の107号住居址南コーナー付近に堆積した焼土中より70から80粒ほどの炭化米が出土した。専門的な種子同定は行われていない。

18. 山伏作遺跡 木更津市請西字山伏作に所在する。矢那川左岸標高約53mの台地上に立地し、低地部との比高差は約30mを測る。遺跡は弥生時代後期から古墳時代中期を中心とした集落と古墳時代後期の墳墓群で構成されている。古墳時代前期のS I 045では、南西コーナーの床面付近からモモ3点出土した。なお、専門的な種子の同定は行われていない。

19. 草刈遺跡 (第85図・写真図版5右下) 市原市草刈字大宮台に所在する。村田川右岸標高約28mの台地上に立地し、低地部との比高差は約18mを測る。旧石器時代から中世の複合遺跡で、弥生時代中期から平安時代にかけての大集落である。遺跡のほぼ中央に位置する草刈K区の住居跡、151号跡(古墳時代中期)の北東コーナー付近に横転して出土した完形の壺中から、マメ類と思われる種子が840粒(13.48g)出土した。分析・同定は行われていない。

20. 大畑台遺跡 (第85・86図) 木更津市請西字大畑台に所在する。矢那川と烏田川に挟まれた標高約63mの台地上に立地し、低地部との比高差は約40mを測る。古墳時代前期から奈良時代を中心とした集落で、古墳時代前期11軒、中期9軒、後期7軒、奈良時代8軒、合計35軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代中期の焼失住居である174号住居では、南東隅にある貯蔵穴上から多量の土器類や滑石製白玉とともにモモ1点出土した。同じ中期の404号住居では住居がやや埋まりかけた時点で南西部に多量の土器・滑石製白玉とともにモモが1点出土し、429号住居でも住居のほぼ中央床面直上からモモ1点出土した。なお、専門的な種子同定は行われていない。

21. 鹿島塚A遺跡 (第86図) 木更津市請西字道上谷に所在する。矢那川下流左岸標高50mの台地上に立地し、低地部との比高差は約39mを測る。弥生時代から古墳時代にかけての集落と墓域で、弥生時代47軒、古墳時代55軒の竪穴住居跡を検出した。このうち古墳時代前期の焼失住居である137号址の覆土中から炭化米304粒が出土している。形態から穎果の可能性が高いが、出土位置・層位、検出方法は不明。古墳時代中期の83号址も焼失住居で、東側の壁周溝から8点の炭化種子が出土した。いずれもモモの核(内果皮)である。調査担当者は炉が存在しないこと、焼失していること、完形土器の出土から祭祀的性格の遺構との考えを示している。同じく古墳時代中期の住居である96号址の覆土中からも炭化した粒塊が出土している。形態からイネ粒である可能性が考えられるが明確にはできない。このほかグリッド出土であるがキビの粒塊が出土した。種子同定は松谷暁子氏が行った。

22. 椎津茶ノ木遺跡 (第86図) 市原市椎津字茶ノ木に所在する。椎津川左岸標高約29mの台地上に立地し、低地部との比高差は約25mを測る。弥生時代中期から奈良平安時代を中心とした集落で、合計157軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代中期の住居跡145号遺構の東南コーナー付近で出土した完形の壺中から炭化米約2合程を検出した。この壺は床面上から横転した状態で出土している。外面の上部に煤が付着しており、炭化米は容量の1/3程度の量である。なお、専門的な分析等は行われていない。

23. 野焼A遺跡 (第87図) 木更津市請西字野焼に所在する。矢那川左岸標高約35mの台地上に立地し、低地部との比高差は約15mを測る。弥生時代後期から奈良時代を中心とした集落と墓域で、総数277軒の竪穴住居跡を検出した。S I 058は古墳時代中期の住居で、覆土中から焼土や炭化材、多量の土器類や石製模造品とともにモモ2点が出土した。出土地点は不明であるが、住居の埋没過程において行われた祭祀行為にともなって廃棄されたものと考えられている。同時期のS I 170では南西部分の覆土中層からモモ1点が出土している。同層からは手捏土器や筒形土製品が出土した。なお、専門的な種子同定は行われていない。

24. 西屋敷遺跡 千葉市若葉区大宮町に所在する。都川左岸標高約22mの台地上に立地し、低地部との比高差は約12mを測る。古墳時代中期から奈良平安時代を中心とした集落と中世の台地整形区画・墓域からなり43軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代後期の焼失住居である020号跡からモモ1点が出土している。出土位置・層位は不明である。なお、専門的な種子同定は行われていない。

25. 有吉北貝塚 (第87図) 千葉市緑区有吉町に所在する。浜野川右岸標高約40mの台地上に立地し、低地部との比高差は約26mを測る。古墳時代後期を中心とした集落で97軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代後期のS B-163住居址ではセクションベルトにそって30cm角のブロックサンプルを採取し、ウォーターセパレーションを行い炭化種子を採取している。また、発掘調査過程で出土した炭化種子も合わせて種子同定を行っている。その結果、イネ25、オオムギ?23、モモ43、スモモ11、サンショウ3、カラスザンジョウ1、不明310の合計416点の同定結果が得られた。このうちモモ8点は住居南コーナー付近を中心に出土している。なお、分析・同定はバリノサーヴェイ株式会社が行った。

26. 高沢遺跡 (第88～95図) 千葉市緑区生実町に所在する。浜野川右岸標高約33mの台地上に立地し、低地部との比高差は約26mを測る。古墳時代後期から奈良平安時代を中心とした集落で約350軒の竪穴住居跡を検出した。このうち19軒の住居跡から炭化種子が検出され、山内文氏により種子の同定が行われた。なお、種子の検出は通常の調査過程において発見されたもので、土壌サンプリング等を行われていない。19軒のうち古墳時代後期が3軒で残りの16軒が奈良平安時代に属している。古墳時代後期の住居出土の炭化種子はすべてモモであり、各1点の出土である。奈良平安時代の住居でも主体はモモで13遺構24点出土した。また、081号・324号住居からはスモモが出土しているが、特に奈良時代の324号住居ではカマド付近の覆土中層から87点がまとまって出土している。このほか平安時代の277号・297号住居からそれぞれ1点ずつコナラ属の種子が出土し、088号住居ではモモのほかムクノキの種子が1点出土した。

27. 久我台遺跡 東金市松之郷字久我台に所在する。九十九里平野に面した標高約60mの台地上に立地し、低地部との比高差は約30mを測る。古墳時代後期から平安時代を中心とした集落で竪穴住居跡を278軒検出した。古墳時代後期の住居S I 168からモモと思われる炭化種子が出土している。出土位置・層位は不明で専門的な種子同定も行われていない。

28. 大井東山遺跡 (第95図) 東葛飾郡沼南町大井字東山に所在する。手賀沼に面した標高約18mの台地上に立地し、低地部との比高差は約10mを測る。古墳時代中・後期を中心とした集落で古墳時代中期2軒、後期33軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代後期の竪穴住居031では、住居西側の覆土中層から5点のモモが出土している。この住居からは手捏土器が4点出土している。なお、種子の同定は松谷暁子氏が行った。

29. 千草山遺跡 市原市能満字東千草山に所在する。養老川右岸標高約30mの台地上に立地し、低地部との比高差は約15mを測る。弥生時代後期から奈良平安時代を中心とした集落と墓域からなり、総数55軒の竪穴住居跡を検出した。古墳時代後期末葉の103号住居跡で覆土中からモモが1点出土している。出土地点・層位は不明である。なお、専門的な種子同定は行われていない。

30. 印内台遺跡群 (19) (第96図) 船橋市印内2丁目に所在する。東京湾に面した標高約18mの台地上に立地し、低地部との比高差は約10mを測る。古墳時代後期から奈良平安時代を中心とした集落で古墳時代後期2軒、奈良平安時代3軒の竪穴住居跡を検出した。このうち古墳時代後期の鍛冶関連工房跡と考えられる006竪穴住居跡の南東柱穴を中心に16点のモモが出土した。モモの出土層が炭化物を多く含む層であることやモモが被熱を受けていることから祭祀行為によって投棄したものと考えられる。なお、分析は辻誠一郎・辻圭子両氏が行った。

31. 海神町遺跡 船橋市海神に所在する。東京湾に面する標高16m前後の台地上に立地するが、現在地は特定できない。海神周辺の遺跡としては海神台西遺跡があり、古墳時代後期から平安時代の住居跡などが検出されている。海神町遺跡では古墳時代後期の竪穴住居跡出土の土器内から炭化したイネ種子塊が出

土している。この種子塊の一面には布片の付着した痕跡が認められた。種子はかなり焼けて変形していたが、穎などは認められず、玄米または多少精白した米粒と推定された。分析・同定は直良信夫氏が行った。

32. 菅生遺跡 木更津市菅生字長町に所在する。小櫃川中流左岸の自然堤防上および沖積低地に立地する。自然堤防上では弥生時代中期の竪穴住居跡や古墳時代後期の大溝などが、沖積低地では小区画水田跡が検出された。炭化種子は出土地の記載はないが、恐らく古墳時代後期の大溝からの出土と考えられ、イネ、モモ、ヒョウタンなど11種類が同定された。分析・同定は粉川昭平氏が行った。

33. 山田水呑遺跡 (第96・97図) 東金市山田字水呑台に所在する。鹿島川と小野川の分水嶺に近い標高約60mの台地上に位置し、低地部との比高差は鹿島川水系支谷で約17m、小野川水系支谷で約32mを測る。奈良平安時代の集落遺跡で竪穴住居跡143軒、掘立柱建物跡52棟を検出した。このうち奈良時代の竪穴住居跡3軒から炭化種子を検出した。第57号住居址ではカマドの燃焼部からモモ1点、第121号住居址では中央部の覆土中層からモモ2点、ウメ1点、横長の長方形住居である第16号住居址では南コーナー付近を中心にモモ6点を検出した。分析を行った山内文氏によって16号住居址出土のモモのうち2点でアカネズミの歯痕が確認された。

34. 文作遺跡 市原市葉木字文作に所在する。神崎川右岸標高約62mの台地上に立地し、低地部との比高差は約25mを測る。古墳時代後期から奈良平安時代の集落遺跡で竪穴住居跡118軒、掘立柱建物跡34棟を検出した。奈良平安時代の掘立柱建物跡の1つの柱穴からモモ2点が出土している。専門的な分析・同定などは行われていない。

35. 小野遺跡 松戸市胡録台字小野に所在する。江戸川左岸標高約27mの台地上に立地し、低地部との比高差は約5mを測る。奈良平安時代の集落遺跡で、第1地点の調査では竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡3棟を検出した。奈良平安時代の竪穴住居跡である3A・3B・4D住居跡においてカマドを中心として土壌サンプリングを行った。その結果、3A住居跡からイネ・サンショウ、3B・4D住居跡からイネが出土した。このほか2号掘立柱建物跡からモモが、3号掘立柱建物跡からイネ・ササゲがそれぞれ柱穴から出土している。なお、分析・同定はパリノサーヴェイ株式会社が行った。

36. 飯仲金堀遺跡 (第98図) 成田市飯仲字台畑に所在する。江川の左岸標高34mの台地上に位置し、低地部との比高差は約20mを測る。A地点からは奈良平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡16棟が検出された。奈良平安時代の3号住居跡では、南東コーナー付近からモモと思われる炭化種子がやや浮いた状態で出土している。なお、専門的な分析・同定は行われていない。

37. 小谷遺跡 (第98図) 木更津市請西字南ノ谷に所在する。烏田川右岸標高約65mの台地上に立地し、低地部との比高差は約32mを測る。奈良時代を中心とした集落と寺院跡で竪穴住居跡11軒と掘立柱建物跡8棟を検出した。奈良時代後半の焼失住居である21号竪穴住居からは、東側で床面より若干浮いて広がる焼土中ならびに焼土直上からモモと考えられる炭化種子7点が出土した。なお、専門的な種子同定は行わ

れていない。

38. 井戸向遺跡 (第99図) 八千代市萱田字弁天作に所在する。新川左岸標高約23mの台地上に立地し、低地部との比高差は約16mを測る。奈良平安時代を中心とした集落で99軒の竪穴住居跡を検出した。9世紀初頭の住居跡D147からは三彩小壺・托、火燧金、火燧石とともに炭化米962粒、マメ類25点が出土した。炭化種子の出土した層は床面から約10cm上位から約15cmの厚みで堆積していた。炭化種子の採取は住居内を20cmのメッシュで区切り、炭化種子確認面から5cmずつの厚さでブロックサンプルし、ウォーターセパレーションする方法で行った。その結果東西2カ所の壁近くに分布のピークが認められ、出土量の変化などから住居の埋没過程において行われた祭祀などの行為によって投棄されたものと推定している。なお、炭化種子は投棄段階ですでに炭化していたものと考えられる。炭化種子の計測はパリノサーヴェイ株式会社が行ったが、種子の専門的同定は行われていない。

39. 上総国分尼寺跡 市原市国分寺台中央3丁目に所在する。養老川右岸標高約29mの台地上に立地する。奈良平安時代の国分尼寺跡で、東側斜面部から検出された9世紀前半の井戸跡について土壌サンプリングを行った。その結果、栽培植物と考えられるものとしてクリ、スモモ、ウメ、モモ、カキノキ属、イネ、ジュズダマ、アサ、シソ属、ナス、ヒョウタンが検出された。なお、分析・同定は南木睦彦、辻誠一郎両氏が行った。

40. 城山遺跡 匝瑳郡光町篠本字城山に所在する。栗山川左岸標高約33mの台地上に位置し、低地部との比高差は約23mを測る。中世城郭跡の下層遺構として古墳時代8軒、奈良平安時代39軒の竪穴住居跡を検出した。このうち9世紀代の焼失住居である1号住居跡カマド前庭部分から、炭化したマメ類とその下より同じく炭化した麻布が出土した。種子の分析は行われていないが、形状からアズキと考えられている。

41. 須和田遺跡 市川市須和田2丁目に所在する。国分川左岸標高約20mの段丘上に立地し、低地部との比高差は約17mを測る。古墳時代後期から奈良平安時代の集落遺跡である。平安時代の第2号住居址からオオムギ1点が出土した。なお、分析・同定は金子浩昌氏が行った。

42. 新城遺跡 (第97図) 香取郡多古町西古内字新城に所在する。栗山川右岸に面した標高約35mの台地上に位置しており、低地部との比高差は約28mを測る。弥生時代中期から奈良平安時代にかけての集落遺跡で31軒の竪穴住居跡を検出した。このうち平安時代(9世紀後半)の15住居跡南西部分において、床上約5cmの焼土層中から塊状の炭化種子が出土した。種子塊は最大幅で64.5mm、最小幅で52.5mm、高さ45mm、重さ32.45gを測る。分析を行った永嶋正春氏によると炭化種子は短粒種のコメであり、籾殻の付着は全く見られず胚も脱落し、精米したものと見られる。また、表面に粗い布目痕(平織の麻布と思われる)が認められ、形状も布を絞りまとめた様子を示している。このことから甑で蒸した堅粥を布で包んだ包み飯と考えられている。

43. 久野遺跡 木更津市下郡錯綜地字西久野ヶ原に所在する。矢那川右岸標高約103mの台地上に立地

し、低地部との比高差は約60mを測る。奈良平安時代を中心とした集落と寺院跡で32軒の竪穴住居跡を検出した。9世紀後半の焼失住居S I-48からはカシ類168.38gが、S I-54からはイネ131.34gが覆土中から出土した。なお、カシ類は住居床面付近にまとまって出土していることや全て穀斗が見られないことから住居中に貯蔵されていたものと考えられる。専門的な分析・同定は行われていない。

44. 馬場遺跡 千葉市稲毛区園生町に所在する。汐田川左岸標高約28mの台地上に位置し、低地部との比高差は約18mを測る。古墳時代2軒、奈良平安時代10軒の竪穴住居跡が検出された。奈良時代の住居跡、S I 5の貼床下からキンエノコロ約250粒とイヌビエまたはメヒシバと思われる種子約50粒が出土した。分析の結果、人為的な集積ではないと考えられる。分析・同定は松谷暁子氏が行った。

45. 日秀西遺跡 我孫子市日秀字西に所在する。利根川と手賀沼に挟まれた標高約19mの台地上に立地し、低地部との比高差は約14mを測る。古墳時代後期を中心とした集落と奈良平安時代の相馬郡家正倉と考えられる掘立柱建物群を検出した。試料の採集および分析は佐藤敏也氏が行った。試料は古代の掘立柱建物跡の柱穴覆土20か所、周辺土壌のサンプル24か所から採取し、いずれも多量の炭化米を検出した。分析の結果、粒型は短粒が主体で15%前後の長粒を含んでいることが明らかとなった。

46. 下北原遺跡 富津市更和字下北原に所在する。湊川右岸標高約11m前後の段丘および沖積低地に立地する。平成2年度の調査では奈良時代の製鉄遺構が検出されている。炭化種子は奈良平安時代の遺物を包含する泥炭層から出土し、イネ・オオムギ・コムギなど16種類が同定された。分析・同定は直良信夫氏が行った。

2 炭化種子の出土傾向

これまで見てきたように、今回の集成作業において確認した炭化種子検出遺構は、弥生時代中期から平安時代のあいだで46遺跡192遺構（グリッドサンプル含む）を数える。また、出土遺跡の分布傾向としては旧下総国南部と上総国のそれぞれ東京湾に面した地域に集中しており、地理的条件や気候的条件もほぼ似た地域の資料と言えよう。

これらの遺構における炭化種子検出方法をまとめると、炭化種子採取の目的で土壌サンプリングを行い種子を検出した遺跡は10遺跡であり、発掘調査過程において炭化種子の存在を確認して種子のみを採取した遺跡は36遺跡であった。また、出土炭化種子に対して専門家による同定がなされたのは25遺跡であった。このように本県においては炭化種子検出を目的とした調査事例は極めて少ないと言える。通常の発掘調査において遺構覆土中から炭化種子を確認し得るのは、土器などの容器に納められたもののほかはモモなど大型のものやコメなど比較的種子の種類を推定し易いものに限られてくる。これに対してアワ・ヒエ・キビ・ムギなどのような小型の種子についての捕捉率は非常に低いと言える。このため後段で述べるような各時期ごとの生業や食生活の復元材料としての炭化種子には自ずと偏りが生じてくることは申すまでもない。また、出土した炭化種子についても専門的な種同定が行われず不明のままであるものや出土位置や層位などのデータが示されていないものも多く、今後調査・整理作業における炭化種子等に対する関心が高まることを期待したい。

では以上の状況を踏まえ、主な種類について出土時期・状況を概観してみたい。

1. **イネ** イネは弥生時代中期以降各時代に亘って出土している。近年、縄文時代に遡る検出例が全国各地で報告されているが、本県においては炭化種子ではないが、弥生時代前期とされる成田市荒海貝塚出土のイネプラントオパールが最古の事例となる。弥生時代から古墳時代にかけての袖ヶ浦市滝ノ口向台遺跡や境遺跡の調査によって行われた炉覆土の洗浄結果によると、若干の雑穀状の種子のほか多くのイネ種子が炉覆土中に混入していることが明らかとなった。また、古墳時代後期の銚子市野尻遺跡や奈良平安時代の小野遺跡における古墳時代後期のカマド覆土中においてもイネが出土していることから、各時代を通じて一般的に炉・カマドの覆土に炭化米が含まれる可能性は高いと考えられる。また、土器内からイネが出土した例は滝ノ口向台遺跡、木更津市中郷谷遺跡、市原市椎津茶ノ木遺跡、船橋市海神町遺跡の4遺跡8事例を数えることができるが、中でも椎津茶ノ木遺跡では古墳時代中期の完形の壺内から約2合程度の種子が出土し、明らかに貯蔵・調理段階での埋没状況を示している。また、弥生時代後期の中郷谷遺跡例では胴部上半を欠失した壺からキビと共にイネが出土し、それぞれ類が残存しており貯蔵の状態を示している。このほか君津市常代遺跡、市原市市原条里制遺跡（弥生時代中期）、多古町新城遺跡（平安時代）の3遺跡からイネの炭化種子塊が出土している。

2. **雑穀類** 雑穀類は粒径の小さいものも多く同定しにくい。そのため不明としたものの多くには雑穀類が含まれているものと考えられる。オオムギでは千葉市有吉北貝塚における古墳時代後期の例が最古で、ほかに平安時代の市川市須和田遺跡例が見られるのみである。キビは同定数が少なく時期の明らかなものとしては、中郷谷遺跡出土の弥生時代後期の事例が認められるのみである。このほか千葉市城の腰遺跡092号住居跡（弥生時代中期）出土の炭化種子塊がアワであるとされるが詳細は不明である。

3. **マメ類** 千葉市東寺山石神遺跡出土の古墳時代中期のダイズ、光町城山遺跡出土の平安時代のアズキが見られる。城山遺跡例には炭化した麻布が伴っており、麻袋などに入っていたことも想定されるが、専門的な同定は行われていない。また、古墳時代中期の市原市草刈遺跡K区151号跡からは、壺に入った状態で炭化したマメ類が出土しているほか、平安時代の八千代市井戸向遺跡からも多数の炭化米に混じってマメ類が出土している。このほか小見川町阿玉台北遺跡023D号址からもマメ類が出土している。

4. **堅果類** 弥生時代では、中期城の腰遺跡でのクリ、後期袖ヶ浦市下向山遺跡、成田市東峰御幸畑西遺跡、鋸南町田子台遺跡でのシイ・カシ類、奈良平安時代では、千葉市高沢遺跡、木更津市久野遺跡でのコナラ属、シイ・カシ類の出土が認められる。このほか常代遺跡（弥生時代中期）、茂原市国府関遺跡（古墳時代前期）、君津市郡遺跡（古墳時代後期）の溝からも堅果類の出土が見られる。これらの堅果類は遺構埋没過程において周辺から混入した可能性も否定できないが、下向山遺跡41号住居例や城の腰遺跡037号跡のように壺に貯蔵された状態で出土したものや、久野遺跡S I - 48のように床面にまとまって出土したものなどは食用として貯蔵していた可能性が高いと言えよう。また、市原市上総国分尼寺の井戸跡からは、平安時代のクリが出土している。

5. **果実類** モモ、スモモ、ウメの類を果実類としてまとめることとする。弥生時代中期の常代遺跡SD-220からモモが出土しているのが最古で、古墳時代前期の木更津市山伏作遺跡SI045例以降住居跡からのモモ出土事例が急増し、古墳時代中期で5例、後期で12例、奈良平安時代で14例を数える。スモモでは古墳時代後期の千葉市有吉北貝塚例、高沢遺跡例、平安時代の上総国分尼寺跡例が見られるが、なかでも高沢遺跡324号住居跡ではカマド付近の覆土中層から87点もの種子が出土している。ウメは奈良平安時代の常代遺跡SK118（井戸）、東金市山田水呑遺跡121号住居址、上総国分尼寺井戸跡からそれぞれ出土している。このほか上総国分尼寺井戸跡からカキノキ属が検出されている。

6. **ウリ類** ウリ類は溝または井戸からの出土のみである。弥生時代中期の常代遺跡SD-220、古墳時代後期の郡遺跡SD071, 469, SK612、奈良時代の常代遺跡SK-118からマクワウリ、ヒョウタンが、平安時代の上総国分尼寺井戸跡からもヒョウタンが出土している。

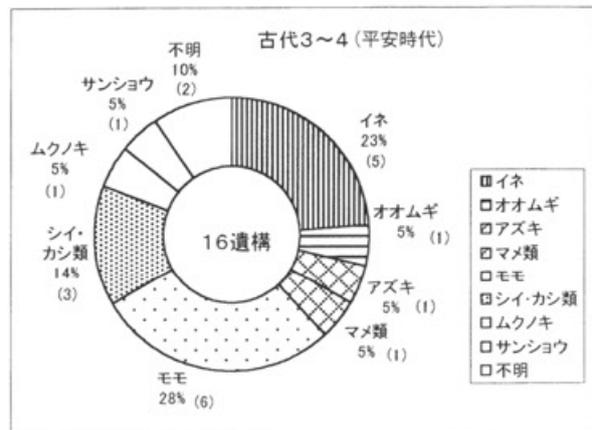
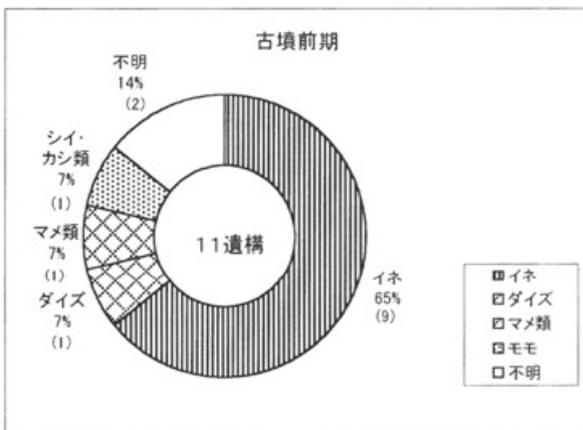
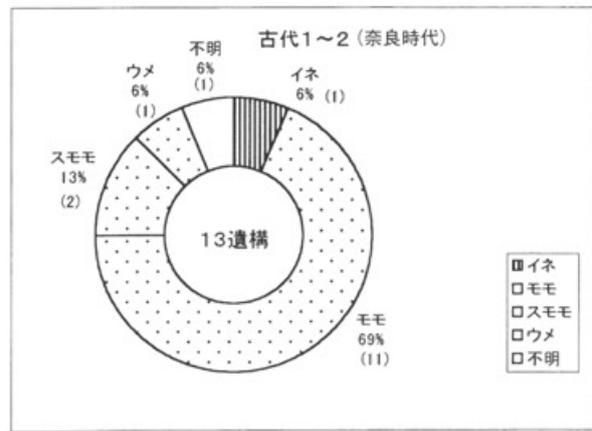
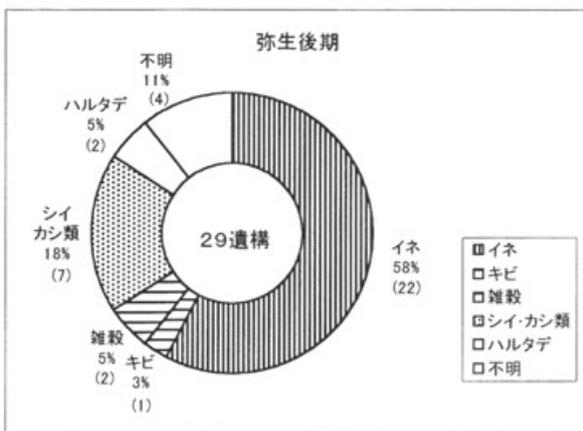
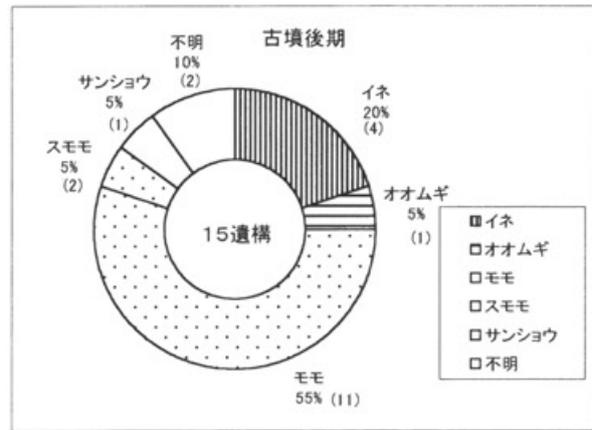
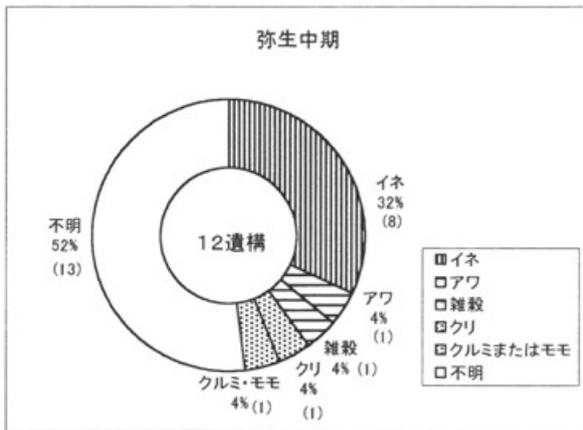
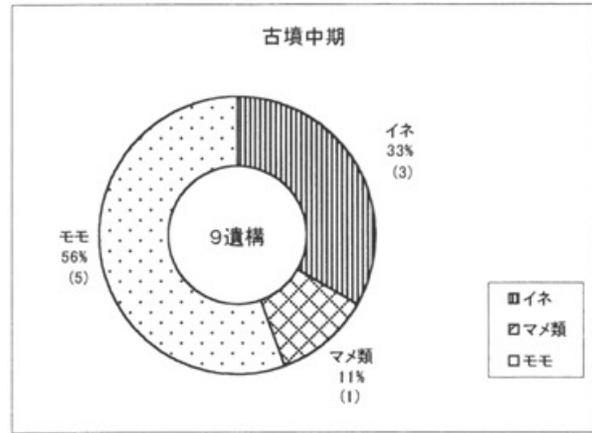
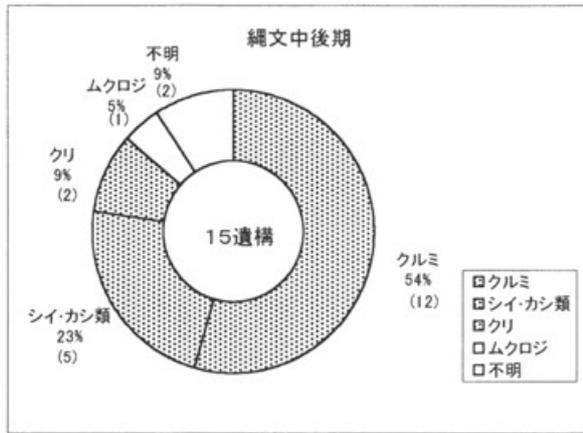
以上のように炭化種子の種類ごとに概観を述べてきたが、各時代ごとの出土傾向について次に示すこととする。第9表は縄文時代から奈良平安時代を8時期に分け、各時期ごとの住居跡出土炭化種子件数を表したものである⁵⁾。先に述べたように炭化種子は住居跡以外の溝などからも多数出土している。しかし、堅果類などは人為的に採集した結果として溝に投棄したものなのか、周囲にある樹木から自然に落下して混入したものか判断するのが難しい。そこで住居跡出土の種子をもとに出土傾向を類推することとしたい。

穀類としてはイネが各時期を通じて出土しているが、弥生時代に近づくほど検出事例が多くなる。これに対して雑穀類、マメ類の検出例は少なく、散発的な出土状況を示している。しかし、中郷谷遺跡035号址（弥生時代後期）壺内出土のキビのほか、定量的土壌サンプリングをした有吉北貝塚SB163住居跡（古墳時代後期）の例では、イネとほぼ同数のオオムギ[?]が出土しており、地域差はあるもののかなりの割合で雑穀の生産・消費があったものと考えられる。県外の事例となるが、神奈川県横浜市高速二号線No.6遺跡（弥生時代後期）のオオムギや埼玉県志木市田子山遺跡（弥生時代後期）のアワなど堅穴住居跡内からまとめて出土する例もあり、今後一定量の比率で検出されるものと思われる。

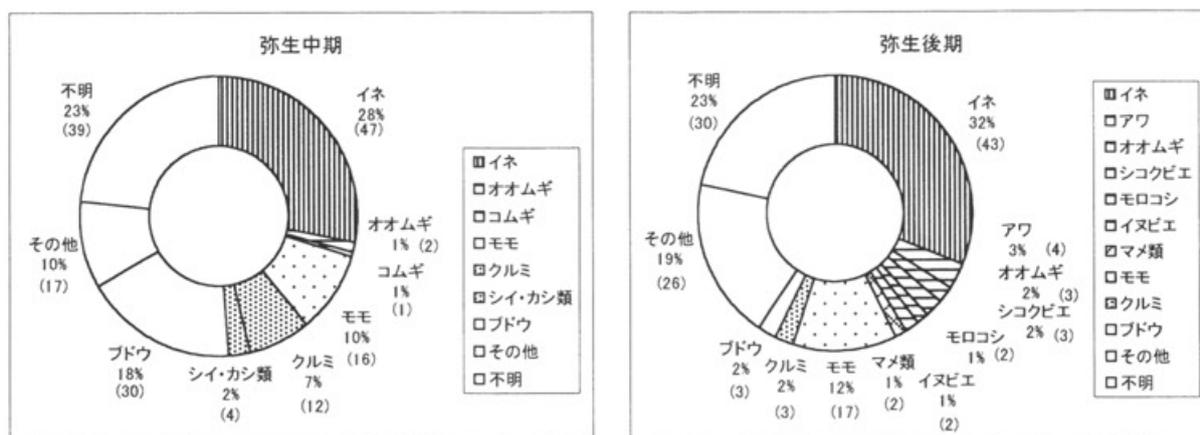
堅果類のうちシイ・カシ類は弥生時代後期と平安時代でまとめて出土している状況である。特に壺内に貯蔵されていた下向山遺跡41号住居址（弥生時代後期）の事例や殻斗のないカシ類が床直上でまとめて出土した久野遺跡SI-48（平安時代）例などは、ドングリ類が救荒食料としての性格も含めて一定の比率で存在していることを示している。しかしながら、全体的に見ると粒径の大きさに比べると出土件数は少ないと言える。今日まで千葉県においては、西日本で見られるようなドングリ類の貯蔵穴は検出されず、貯蔵方法との関連から今後検出事例が増える可能性もある。また、モモについては県内では古墳時代前期以降急速に住居跡からの出土例が増える。ただし、モモは古来より呪術的な霊力を持つ果実として珍重されていることから、単に食料残屑として住居跡内に残されたと考えるよりも、住居廃絶に伴って行われる祭祀行為に関連して故意に投棄された資料も多いものと考えられる。

このように千葉県内の炭化種子出土状況からは、比較的バラエティー豊かな食生活、食料生産・採集活動の一端を見ることが出来る。また、祭祀性を考慮しなければならないモモを除くと各時期を通じて増減があるもののイネが20%から65%（奈良時代のみ6%）と穀物の主体であることには変わりがなく、雑穀類（5%から8%）や堅果類（7%から18%）は客体的出土状況を示していると言えよう。しかしながら

第9表 時期別食用植物比率（ ）内は遺構数



第10表 神奈川県時期別食用植物比率



資料数の制約から、各時期におけるイネと雑穀との比率の変化、地域・集落ごとの生産活動・食生活の相違といった細かな違いを指摘するには至らなかった。近年、近隣諸県においても遺跡出土の炭化種子についての関心が高まり、炭化種子検出遺構の集成などが行われている。神奈川県では弥生時代について炭化種子検出遺構と同定結果をまとめている⁶⁾。それらについて先に行ったように住居跡出土資料をまとめると、第10表のようになる。神奈川県は本県と気候風土も近く、同定件数は弥生時代に限定されたものであるが本県より大幅に多い。このような神奈川県のデータに照らしても、千葉県内において確認したよりも雑穀類やモモの同定件数が多いものの、イネが卓越し雑穀や堅果類が少量含まれるという傾向に大きな変化は見られなかった。

今回の検討ではより人間の意思が働いた可能性の高い竪穴住居跡出土の炭化種子を対象としておこなった。しかし、小面積の竪穴住居跡であっても炭化種子の遺存原因は様々であり、貯蔵していたものか調理途中でこぼれたものか、燃料として使用されたものか、宗教的な意味から投棄されたものなのかを慎重に判断する必要がある。さらに、種子が炭化する原因そのものについても究明する必要があるのではないだろうか。これらの資料操作をした後に同じ条件下で比較して初めて各時代の食料生産のあり方が明らかになるものと思われる。また、各時代相を明らかにするには、その前後を含めた広い時代幅での比較検討が必要であることは言うに及ばない。

3 炭化種子の出土位置と埋没過程について

ここでは炭化種子の出土状況について若干述べることにする。すでに前節においても指摘したように炭化種子の出土状況については、人為的な結果によるものか自然堆積によるものかを資料批判する必要がある。また、この検証を行うことによって当時の食料の保存状況や調理方法、祭祀内容などの解明に多少でも迫れるものと考えたい。このため、ここでは直接人間が関与した可能性が高い竪穴住居跡における炭化種子の出土傾向と種子の種類について考えることにする。これまで行ってきた集成作業から見ると出土傾向には4つのパターンを認めることが出来る。それは(1)土器などの容器内から出土するもの、(2)炬やカマドなどの覆土内から出土するもの、(3)床面上から出土するもの、(4)覆土中層・上層から出土するものである。いうまでもなく(1)がもっとも人間の意思が強く働いた結果であり、(2)、(3)といくに従って意識的に種子を残そうとしたものか結果として残ったのか、または自然の作用によって残ったも

のか判断するのが難しくなるといえる。ではつぎにそれらを個別に見ていくこととしよう。

1. 土器などの容器内から出土するもの 弥生時代中期の袖ヶ浦市滝ノ口向台遺跡040号、055号、003号住居跡、千葉市城の腰遺跡037号跡、後期の袖ヶ浦市下向山遺跡41号住居址、木更津市中郷谷遺跡035号址、鋸南町田子台遺跡2号住居址、古墳時代中期の市原市椎津茶ノ木遺跡145号遺構、市原市草刈遺跡K区151号跡、古墳時代後期?の船橋市海神町遺跡の8遺跡10遺構から検出された。このうち滝ノ口向台遺跡例は、いずれも炭化種子の量が1点から5点と少量であり、流れ込みの可能性も否定できない。また、城の腰遺跡では壺破片に挟まれた状態でクリが出土し、田子台遺跡例では大型の土器破片の下からシイ類が出土しているが、土器内とするにはやや問題が残る。海神町遺跡例では炭化種子については多く言及しているものの、土器についての詳細は不明である。

これら4遺跡の事例を除いた4遺跡4遺構の事例については、いずれも焼失住居の床面直上からの出土であり、明らかに人為的に種子が土器内に納められたものと考えて差し支えないと言える。つぎにこの4事例について子細に見てみよう。下向山遺跡41号住居址では入り口から見て左側奥の柱穴に近い部分で横転した完形の小型壺からカシ類が出土している。壺は横転した上面がかなり被熱を受け一部還元化している。内面の底部付近と一部の側面に円形の器面剥落が認められ、剥落場所と被熱箇所が一致することから円形剥落は使用によるものではなく焼失時に生じたものと考えられる。また、底部外端部分の磨滅はあまり認められない。このことから、壺そのものはあまり動かさずに使用されていたと思われ、壺周辺に種子が散乱していることを考えると壺を吊すか棚の上に置いていた可能性も指摘出来よう。

中郷谷遺跡035号址では住居南東壁近くから壺が正位の状態で出土し、中からイネ・キビが検出されている。この壺は胴部上半を欠失し、割れ口部分を磨いて再利用したものである。このため鉢に近い形状を呈している。中から出土したイネ・キビはいずれも穎が残存しており、すぐに食用に供する状態ではなく一時的な保管状況を示しているものと考えられる。また同じ容器内に違う種子が混じっている状況をどの様に考えるかなど検討課題が多い。

椎津茶ノ木遺跡145号遺構は、切り合い関係が激しく住居全体の形状を明らかにすることは困難であるが、南東コーナー付近で横転した壺からイネが出土している。この壺の上部には煤の付着がみられ、数次にわたって火に掛けられ煮炊きされていた状況を示している。しかし、炉そのものは検出されず、出土状態からは炉に置かれていたとは考えられない。また、イネ自体の分析が行われていないため、穎が含まれるかどうかは不明であるが、壺の出土位置から一時的に保管されていたものと考えられる。

草刈遺跡K区151号跡は遺存状態の悪い遺構であるが、多数の土器類や土製支脚が当時の状況そのままに出土している。このうち炉跡奥の北東側壁付近で横転した小型の壺からマメ類が出土している。壺はよくミガキ痕跡を止めており、焼失時に生じたと考えられる煤が付着しているものの煮炊きに使用した形跡は認められず、底部および内面の損耗も見られない。このことから、ある一定期間マメ類を貯蔵していたものと考えられる。

以上4例について詳細に述べたが、炭化種子が中から出土した土器の器種は、椎津茶ノ木遺跡例を使用状況から甕の範疇に入れるとしても、他はいずれも壺であり壺イコール貯蔵具であるとする解釈を示す実例と言えよう⁷⁾。しかしながら、壺自体が再利用品であったり、加熱行為の痕跡をとどめているものがあること、容量の小さい小型品が多く見られることなどを考慮すると、恒常的な貯蔵用具と考えるよりもむ

しろ、食用に供するにあたりバラバラになりやすい種子を一時的に入れておく容器としての側面が強調されていると言える。また、下向山遺跡例など加飾性の低いものが使用されていることも注目される。住居内での出土位置については、いずれも住居のコーナー付近からの出土であり、住居のコーナー部分が収蔵保管スペースとなっていたことが窺える。また、中郷谷遺跡を除く3例はそれぞれ横転した完形の小型壺からの出土であり、棚などに置かれていたものが落下した可能性も考えられる。

2. 炉やカマド内から出土するもの 弥生時代中期の滝ノ口向台遺跡040・043・044・045・052・058号住居跡、後期の袖ヶ浦市境遺跡50・57・59・61・76・78・82号住居址、滝ノ口向台遺跡006・008・011・014・016・018・030・034・036号住居跡、袖ヶ浦市谷ノ台遺跡S I 021、古墳時代前期の境遺跡58・62・67号住居址、後期の銚子市野尻遺跡5・7号住居跡、古代の東金市山田水呑遺跡57号住居址、松戸市小野遺跡3 A, 3 B, 4 D号住居跡の6遺跡32遺構で出土している。比較的遺跡数が少ないにもかかわらず検出住居数が多いのは、炭化種子の検出を目的として炉やカマドの土をサンプリングした結果に他ならず、他の多くの遺跡においてもサンプリングを実施すれば炭化種子の採集は容易に行われることを示している。さて、これら検出遺構のうち山田水呑遺跡例でモモが出土しているほかは、イネを主体として若干の雑穀様の種子が加わるという傾向が見て取れる。

カマドから炭化種子が検出される要因として櫛原功一氏は、(1)調理時の噴きこぼれなどから主食の実体を示す。(2)カマド内への片付けあるいは清掃。(3)飼料その他の目的での調理。(4)燃料としての植物質食料。(5)カマド祭祀の5点をあげている⁸⁾。炉やカマドの灰について分析を行った千葉市馬場遺跡や上ノ台遺跡、松戸市小野遺跡の例によるとイネの灰像が卓越して検出された結果が得られている。また、神奈川県秦野市砂田台遺跡の炉の炭化種子分析では、穎の付いたイネや果肉の付いたブドウが検出されている。このような結果から判断すると、炉やカマドからイネが多く検出される理由として、脱穀後の稲藁を燃料への点火材として利用した際、藁に残っていた種子が炉やカマドに残留したものが多くあったと想定される。そのため炉やカマドの資料のみで、当時の食生活を復元することには注意が必要である。

3. 床面上から出土するもの 床面直上から炭化種子が出土する事例は、弥生時代中期以降各時代を通じてあり、イネやシイ・カシ類、モモ、マメ類など種類も多様である。これらの種子については人為的な要因として、住居内に直接籠などに入れられたまま放置されたもの、天井から下げられていたものが落下したもの、または住居の廃絶に伴って置かれたものなどの事由が想定される。また、自然的な要因の強いものとしては、住居の埋没過程の初期において何らかの理由によって種子が混入するケースが考えられる。いずれにしても埋没時の土層堆積状況や出土状況が重要であり、焼失住居などにおける焼土層下出土の種子などは、住居との同時性の高い床面出土資料に相当する資料と言えよう。このほか後述のようにモモなど、それ自身に霊力が宿るとされる植物については祭祀行為を念頭に置く必要がある。また、久野遺跡のシイ・カシ類のように殻斗がないものが集積されるなどの特徴は住居に帰属するものと考えられる。

4. 覆土中層・上層から出土するもの 各時期を通じて検出されるケースで、種子の種類も多様である。千葉市有吉北貝塚S B 163では定量的なサンプリングを行い、イネ、オオムギ？、モモ、スモモ、サンショウ、カラスザンショウといった種子が検出されている。このような覆土中層・上層から出土する種子に

については、木更津市野焼A遺跡S I 058や八千代市井戸向遺跡D147のように共伴する遺物が多い事例を除き帰属する時期を特定できない場合が多い。共伴遺物がある場合はその内容から時期や性格などを推定することができ、先述の野焼A遺跡例や井戸向遺跡例では祭祀的な行為が想定されている。また、成田市東峰御幸畑西遺跡15・19号住居例出土のシイ・カシ類のように周辺に自生する植物種子などは、住居廃絶後の自然堆積と共に混入した可能性は否定できない。

以上のように出土状況から種子の帰属や性格について考えてきた。2項において述べた炭化種子の出土傾向についても、本来同じ条件下でないものを比較対象とすることは出来ず、このような資料批判を厳密に行った上で時期別の傾向を論議するのが当然である。しかしながら、現時点では炭化種子の出土件数自体が多いとは言えず、大雑把な傾向を述べるにとどまった。今後良好な出土資料の増加によって同じ条件下での比較検討が行われることを期待したい。

4 いわゆる「おにぎり状炭化物」について

ここではイネ炭化種子が塊状に固形化したものを総称して「おにぎり状炭化物」として扱うこととする。住居跡出土以外のものを含めて県内では、弥生時代中期の市原市市原条里制遺跡並木地区S D-008（2点）と君津市常代遺跡S D-220（2点）、平安時代の多古町新城遺跡15住居跡、中近世の市原条里制遺跡市原地区4区の3遺跡6例を数えることができる。これらの出土状況は常代遺跡・市原条里制遺跡並木地区では宮ノ台期の溝跡から、新城遺跡では竪穴住居跡、市原地区では水田覆土中からの出土である。

市原条里制遺跡並木地区S D-008出土の2点の「おにぎり状炭化物」は、いずれも溝跡の上層部からの出土である。このうち遺物番号1239（写真図版7）は、長径7.87cm、短径7.65cm、最大肥厚4.48cm、重さ33.88gを測る。外形は三角形を呈し底面と2方の側面は平らで二次的に擦ったような痕跡が認められ種子の形が壊れている。側面の残る1方は割れた状態で内部に原形を止めたイネ種子が高い密度で確認できる。全体に種子密度が高く外面部分はよく発泡しており、種子の間も炭化物で埋められ糊状のもので固着している様子が窺える。肉眼で観察した限りでは穎などは見られない。また、遺物番号912（写真図版6）は、長径7.05cm、短径5.34cm、最大肥高3.46cm、重さ25.13gを測る。外形は半分に割れた碗形を呈し底面が外湾している。碗形の底面部分は特に種子の炭化状態が著しく、反対側の上面部分は種子の間を埋める糊状の炭化物が多く見られる。割れ口部分の種子は良く原形を止めており種子密度は高く穎や藁などは見られない。これに対して市原地区4区のⅡ1層下部の水田耕作土から出土した遺物番号026（写真図版8）は不整形を呈し、長径6.73cm、短径4.60cm、重さ24.73gを測る。前2例のような炭化度合いの違いは認められず、全体に種子の形状を良く止めた状態である。種子には穎が含まれ藁も見られる。

常代遺跡S D-220では2点の「おにぎり状炭化物」が出土しており、そのうちの1点は幅約4.5cm・高さ3.5cmの円筒形で、米粒は比較的本物の形状を保っており、種子間は炭化物で埋められている。また、一部に藁状の繊維や穎の付着が認められる。残りの1点についても百原新氏の分析によると穎が認められたとされている。

これらのものと若干様子が異なるものが新城遺跡15住居跡例である。長径6.1cm、短径4.6cm、重さ33.59gを測る。外形は楕円形を呈し、表面には平織りの麻布と思われる粗い布目痕が認められ、一か所には布を絞ったタワミが見られる。種子は比較的本物の形状を留めており、穎や他の種子などは見られない。

以上県内で出土した「おにぎり状炭化物」について見てきた。これらの炭化種子塊の共通する特徴は、

その構成される種子がイネのみから成っていることである。しかし、それぞれの状態には違いが見られ、大きく2つに分類することができる。一つは常代遺跡や市原条里制遺跡市原地区の例のように、穎や藁が混入しているものである。これらは食用にされたものとは考えにくく、貯蔵時や収穫時などで火を受け炭化した可能性が高いと言える。もう一つは市原条里制遺跡並木地区や新城遺跡の例である。並木地区の遺物番号912は甕の底を思わせる椀形を呈し、底面が著しく炭化しているなど、調理の過程で炭化した「おこげ」の可能性が極めて高いものや新城遺跡例のように明らかにコメを布で包み調理したものか調理したコメを包んだ様子が窺えるものなど、調理中の不注意か何かで生じた失敗作の可能性が高いものに分けることができる。

弥生時代中期の市原条里制遺跡並木地区例が「おこげ」であるとしたら、仮にマツリなどの特別な日の食事であったとしても、雑穀を混ぜたものではなく純然としたコメの飯を食する機会があったことを示していることになる。また、「おこげ」という失敗作であるとするれば、これより多くの成功例が存在したはずであり、弥生時代人がコメを食する機会は比較的多かったものと推定される。調理の方法についても種子がもとの形状をよく保っていることを考えると、粥などではなく炊いていたものと考えられる。近年、小林正史氏による甕の使用痕分析から弥生時代には炊きあげる炊飯方法が普及していたとの指摘がなされており⁹⁾、これらの結果とも一致する内容と言える。

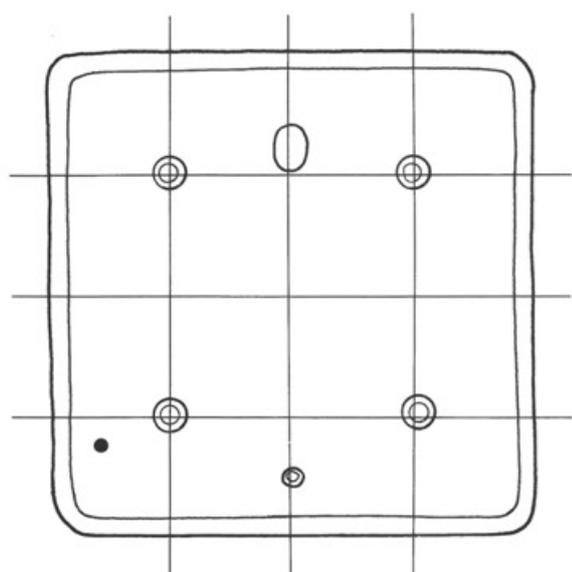
平安時代の新城遺跡例は、布にコメを包んだ状態で出土している。調理したコメを包んだものとも考えられるが、平安時代にはすでに甑が普及しており、甑でコメを蒸す場合甑の内面にコメが付着するのを防止するため布に包んでいたことも想定される。このほかイネ種子塊に布片や繊維痕が付着している例としては、船橋市海神町遺跡（古墳時代後期）や神奈川県平塚市北金目遺跡群32区S I - 008（弥生時代後期）があげられるが¹⁰⁾、布に包んで調理する過程で炭化したものかどうか検討する必要がある。

今回「おにぎり状炭化物」として炭化種子塊を取り上げたが、明瞭に「おにぎり」であると断定できるものはなかった。また、食用に適さないものや「おこげ」や蒸したコメの可能性などがあることを指摘した。少ない資料から判断したため推量を出ない部分も多い。従来「おにぎり状炭化物」といわれてきているものがはたして「おにぎり」や「ちまき」あるいは「おこげ」ではあるかは、調理方法も含め今後の研究の進展と資料の増加に委ねるところが大きい。

5 モモ核の出土状況と祭祀行為

モモは古くから『古事記』『日本書紀』における黄泉国神話などの文献にも登場する霊力のある果実として有名である。また、最近の成果においても法隆寺の五重塔や金堂、大講堂の柱上部の穴や大阪府池島福万寺遺跡の土器埋納遺構からもモモが出土しており¹¹⁾、文献上に現れるモモの特殊性を示す結果となっている。さて、今回の集成でもモモは弥生時代中期から中近世に至るまで多数確認され、遺構の種類も竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝・井戸と多岐にわたっている。本節ではこのうち竪穴住居跡ならびに掘立柱建物跡から出土するモモについて若干の考察を試みることにしたい。

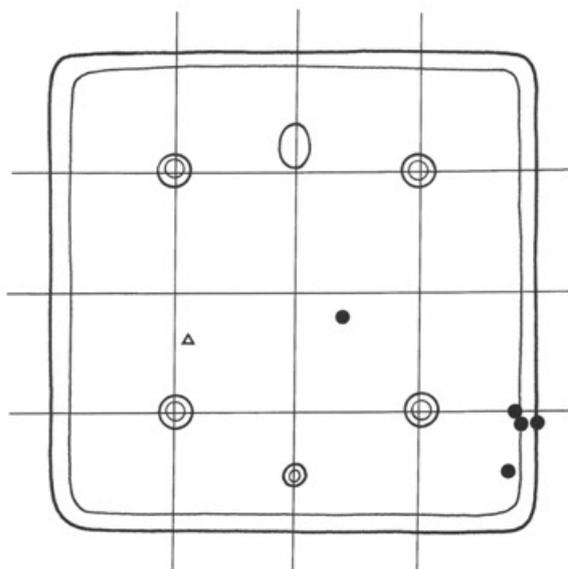
県内における最古の竪穴住居跡出土のモモは、古墳時代前期の木更津市山伏作遺跡S I 045であった。古墳時代前期以降、時代を追うに従って検出事例は多くなり、前期では1遺構3点、中期5遺構12点、後期11遺構71点、古代19遺構42点となる。このうち出土位置が明確な、前期1遺構、中期4遺構、後期6遺構、古代15遺構について出土地点・層位について検討を行った。検討方法は報告書の記載事項やドット図



古墳前期 1遺構

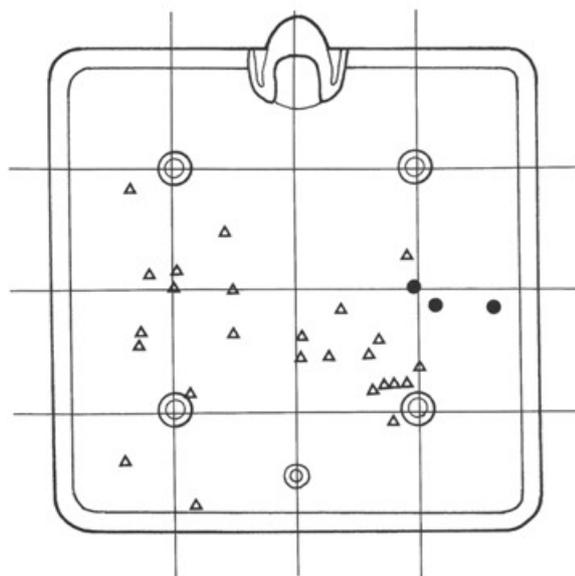
山伏作 (045) 3点

● 床直
▲ 覆土中



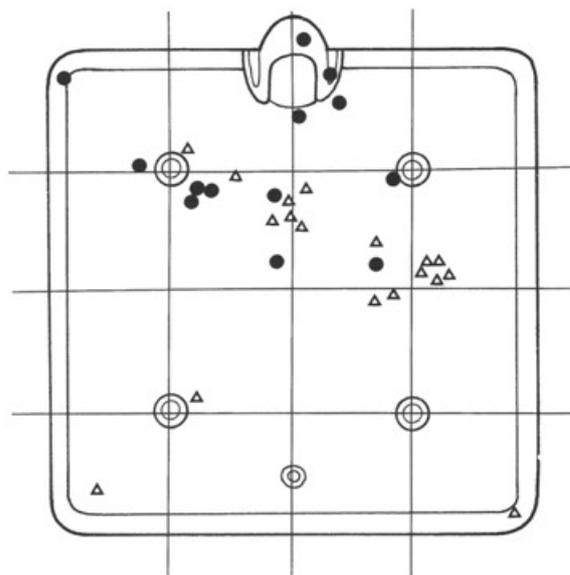
古墳中期 4遺構

大畑台 (174) 1点 (穴上)
鹿島台A (83) 3点 (床)
大畑台 (429) 1点 (床)
野焼A (170) 1点



古墳後期 6遺構

有吉北貝塚 (SB163) 8点
高沢 (190-A) 1点 (床)
高沢 (165) 1点 (床)
大井東山 (031) 5点
高沢 (127) 1点 (床)
印内台 (006) 13点



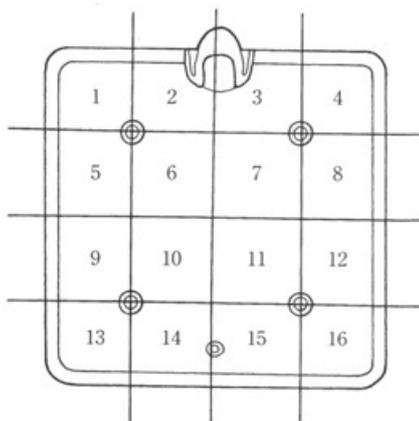
古代 15遺構

高沢 (046) 2点 (床) 飯仲金堀 (3) 1点
高沢 (022) 1点 (床) 小谷 (22) 7点
高沢 (186-B) 2点 山田水呑 (121) 2点
高沢 (081) 1点 山田水呑 (57) 1点 (カマド)
高沢 (187-B) 1点 (床) 高沢 (292) 7点 (床3)
高沢 (088) 3点 (床2) 高沢 (170) 1点 (床)
高沢 (330) 1点 (カマド) 高沢 (162-B) 1点 (床)
高沢 (212) 1点

第83図 時期別桃核出土状況図

第11表 住居出土桃核一覧

遺跡名	遺構番号	時期	出土層位	モモ出土位置	石製品	金属製品	土製品	手捏	その他	焼土	炭化物	備考
山伏作	S I 045	古墳前期2	床面直上	13	—	—	—	—		○	○	
大畑台	S I 174	古墳中期1	床面直上	16	白玉50, 砥石1 紡錘車1	—	—	手捏3	土器多	○	○	白玉と混在
大畑台	S I 429	古墳中期1	覆土中	13	白玉28	—	—	—		○	○	白玉と混在
大畑台	S I 429	古墳中期1	床面直上	11	白玉1	—	—	—		○		
鹿島塚A	83号址	古墳中期1	床面直上	16	—	—	—	—	土器少	○		
野焼A	S I 170	古墳中期2	床面直上	—	砥石1	—	土錘1	—	土器多			
			覆土中	10	—	—	—	手捏2				
有吉北	S B 163	古墳後期3	床面直上	—	—	鉄鏃2	勾玉1	—	土器多	○		
			覆土中	5, 7, 9, 10, 12, 13, 14	—	刀子1, 鉄鏃1	土玉36, 玉1, 勾玉1					
高沢	190-A	古墳後期3	床面直上	12	—	—	土玉1?	—				
高沢	165	古墳後期3	床面直上	12	—	—	—	—		○		
			覆土中	—	—	—	—	手捏1				
大井東山	031	古墳後期4	覆土中	5, 6, 9, 10	—	鉄鏃1	土玉1, 土錘3 土製勾玉1	手捏4 ミナヅメ1	土器中覆土中			
高沢	127	古墳後期5	床面直上	7	—	—	—	—		○		
			覆土中	—	—	鏃子1	土玉1?					
印内台19	006	古墳後期5	覆土中	10, 11, 15	白玉1	刀子3, 鉄鏃3, 釘2 穂摘具1, 耳環2	—	—	スラグ 土器少	○	○	
高沢	292	古代1	床面直上	1, 6, 7	—	刀子1	—	—				
			覆土中	2, 7	—	—	—					
高沢	170	古代1	床面直上	3	—	刀子1, 鉄鏃1, 環状1	—	—				
			覆土中	—	—	鏃1	—					
高沢	162-B	古代1	床面直上	1	—	刀子1, 鉄鏃1?	—	—		○		
高沢	046	古代1	床面直上	6, 7	—	—	—	—				
			覆土中	—	—	鉄鏃3	—					
山田水香	57	古代1	床面直上	3	—	—	—	—	土器少			
山田水香	016	古代1	床面直上	13	砥石1, 軽石2	刀子1	—	—	スラグ、土器少	○		長方形住居
山田水香	121	古代1	覆土中	6, 7	—	刀子2, 釘2, 鉄鏃1	—	手捏1	スラグ、土器多	○		手捏と混在
小谷	S I 22	古代2	覆土中	8, 11	—	刀子2, 釘2	—	—	土器多	○		刀子は近接
飯仲金堀	3号住居	古代2	覆土中	16	—	刀子2, 鉄鏃2, 包丁1	—	—				
高沢	022	古代2	床面直上	3	砥石1	刀子1	—	—	土器少	○		
高沢	081	古代2	覆土中	2	—	刀子1, 鋸状1	—	—				
高沢	186-B	古代3	覆土中	10, 13	—	鉄鏃1	—	—				
高沢	187-B	古代3	床面直上	6	—	—	—	—				刀子は床に近い
			覆土中	—	—	刀子2, 鉄鏃5, 手錘2, 鏃2, 鋸1, 紡錘車2	—					
高沢	088	古代3	床面直上	6	—	刀子1	—	—				
			覆土中	6	—	鉄鏃1	—					
高沢	212	古代3~4	覆土中	16	—	—	—	—				
高沢	330	古代	床面直上	3	—	—	—	—				
			覆土中	—	—	—	—	切子玉1				



16分割番号表

を参考にして床直出土のものと覆土中のものとを大別するとともに、住居跡を柱穴・カマド・炉・はしご穴などを結んだ線により16分割して模式図を作成した。こうして作られたのが第83図である。また、共伴遺物を示したのが第11表である。その結果、資料点数が少ないものの古墳時代前中期においては、炉の反対側すなわち入り口部が想定されるコーナー周辺の床面に分布の偏りが認められ、後期になると圧倒的に覆土中からの出土が多くなり、住居の中心部に広く分布する傾向を示している。これに対して古代になるとカマドを中心とした住居の奥部に集中し、しかも床面直上からの出土が多くなることがわかる。また共伴する遺物では、古墳時代中後期では玉類や手捏土器が、古代では鉄製品（特に刀子）が同一層位から多く出土している。このような結果から見ると、古墳時代では竪穴住居跡の埋没過程において周辺で行われた祭祀行為の後に祭祀に使用した品物と共にモモが投棄された可能性が指摘できる。これに対して奈良時代以降にはカマドに対する意識が強くなり、カマド廃絶時に伴って行われる祭祀行為にモモが伴っていたものと考えられる¹²⁾。

掘立柱建物跡の柱穴からモモが出土した例は、君津市郡遺跡S B006（古墳時代後期）、市原市文作遺跡掘立柱05（奈良時代）、松戸市小野遺跡2号掘立柱建物（奈良平安時代）の3遺跡3遺構で確認されている。郡遺跡例は四面廂建物と考えられるが出土位置は不明である。文作遺跡例は2間1間の建物の南側中央の柱穴から2点のモモが出土している。柱の抜き取りは認められない。小野遺跡2号掘立柱建物は南北棟の3間3間の建物で、東側の南から2本目の柱穴から5点モモが出土している。類例が少ないものの出土した事実は注目に値する。また祭祀行為に使用されるモモは、必ずしも果肉を伴ったものであるとは断言できず、先の法隆寺の柱内や池島福万寺遺跡土器埋納遺構出土例が示すように内果皮（モモ核）が納められていた事例も存在する。

県内の少ない事例からモモの出土傾向について述べてきた。モモは祭祀に伴う遺物であるとして報告書などで簡単に扱われることが多い。しかし、実際の祭祀の内容について具体的に検証する必要が求められつつあると言えよう。

6 小結

これまで千葉県内で出土した炭化種子から、弥生時代から平安時代にいたる農耕生産物の内容について検討してきた。その結果多様性に満ちた食材利用の実体を垣間見ることが出来た。またその構成比率では、モモを除いて考えると各時期を通じてイネが卓越し雑穀や堅果類が少量認められる傾向が指摘できた。この傾向は弥生時代を対象とした神奈川県の結果とも合致する内容であった。これに対して長野県佐久市下聖端遺跡の分析では¹³⁾、弥生時代後期から平安時代中期にかけて共通してコムギや雑穀類の比率が高い結果となり、千葉県や神奈川県の結果と対照的である。この違いは気候風土による地域性の違いを反映している可能性も考えられる。

炭化種子から当時の食物依存率を推定しようとする試みは、弥生時代を中心に行われてきた。それは弥生時代が水稻耕作を受容し、以後続く日本農業の礎を築いた画期的時代であり、当時のイネ生産量の推定は稲作技術がどの程度の水準であったのかを決定する重要な要素の一つであったからに他ならない。弥生時代の出土炭化種子を全国的に集成し分析した寺沢薫氏は、ドングリの出土件数がイネを上回ることやイネ以外の穀物が多数認められることから、弥生時代のイネ生産量はかなり低いもので弥生人はコメを食べたいがめったに食べることが出来ない「米食悲願民」であるとの結論を提示した¹⁴⁾。また、当時の主食は

コメの生産量の低さを補うために雑穀を混ぜた粥であったろうとしている。先述のように今回の集成結果では、古代を含めた各時代でイネの優位性が認められたほか、構成比率においても各時代似たような傾向が見られた。また、弥生時代の「おにぎり状炭化物」が調理されたものであるならば、多くがイネのみで構成されており雑穀との混炊状態を示していないし、粒子の形状から見ても粥の炭化したものである可能性は低いと言えよう。このように今回のデータの範囲内からは、「米食悲願民」と言われるような弥生人像是導き出せなかった。

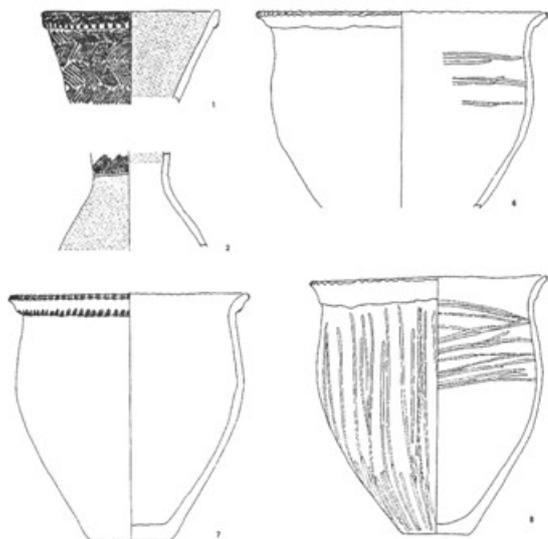
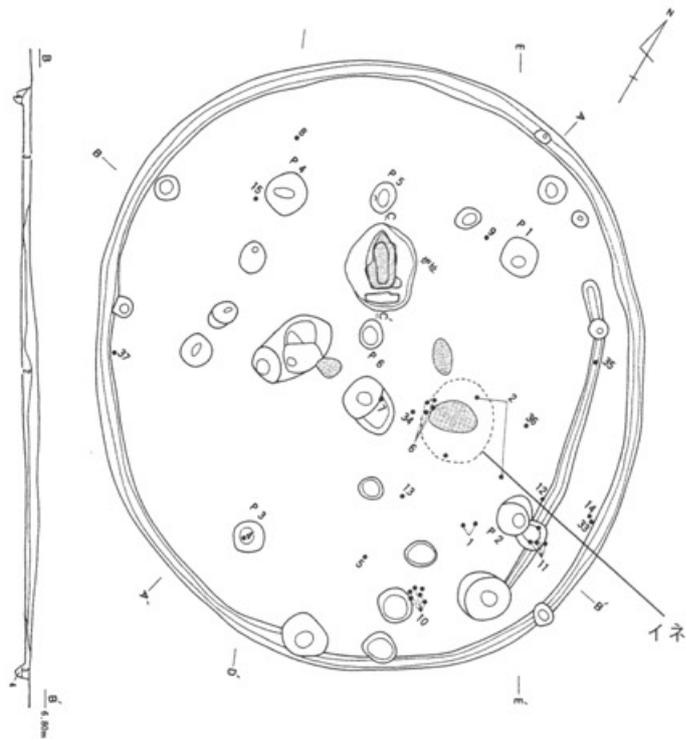
このほか堅穴住居跡における炭化種子の出土状況を分類し資料批判する過程で、モモの出土状況についても若干触れた。モモは霊力のある植物として珍重されていることはよく知られていることである。高沢遺跡の事例を中心に、時期ごとの平面分布、垂直分布、共伴遺物について調べた結果、奈良時代を境にして出土状況が大きく変化し、カマドの周辺に集中化する傾向が認められた。このことから奈良時代以降集落内において、カマド廃棄に伴うモモを使った祭祀が一般化した可能性を推定した。

いずれにしても、現段階では資料数の制約から大づかみ且つ不安定要素を多く含んだ内容となってしまった。県内では毎年何百軒という堅穴住居跡が調査されており、何の躊躇もなく住居覆土を廃棄している。近年のウォーターセパレーション実施事例からも分かるように、この覆土の中には原始・古代の農耕の実像や食生活の実体を明らかにする貴重なデータが含まれていることは言うまでもない。この小論が炭化種子に関する関心を喚起し、今後の研究の一助となれば幸いである。

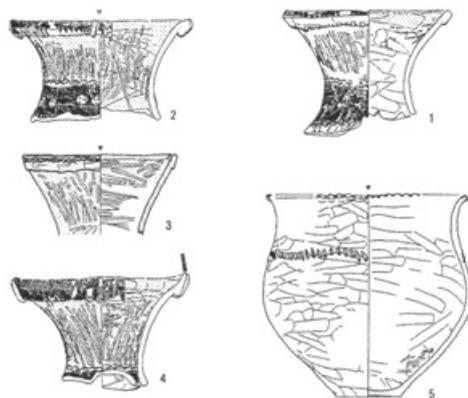
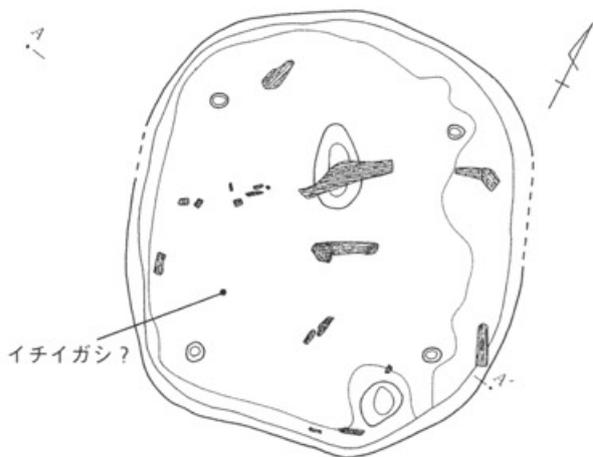
注

- 1) 小澤清男 1983「房総半島における縄文時代遺跡出土の植物種子をめぐって－特に堅果類の採集から廃棄までのプロセスを中心に－」『貝塚博物館紀要』第9号 千葉市加曾利貝塚博物館
- 2) 吉崎昌一 1992「古代雑穀の検出－考古植物学調査の展開－」『考古学ジャーナル』No.351
- 3) 佐藤洋一郎 2000『縄文農耕の世界』PHP新書 PHP研究所
- 4) 可食植物については、寺沢薫・寺沢知子 1981「弥生時代植物質食料の基礎的研究」『考古学論攷』第5冊 榎原考古学研究所による。
- 5) 縄文時代中後期のグラフについては、小澤清男氏のデータに市原市武士遺跡での8住居のデータをプラスして作成した。
- 6) 弥生時代研究プロジェクトチーム 2001「弥生時代の食用植物－炭化種子及び種子圧痕について－」『研究紀要 6 かながわの考古学』 かながわ考古学財団
- 7) 群馬県有馬条里遺跡や町田小沢Ⅱ遺跡では、甕内から炭化米が出土している。相京建史 1997「食べられる植物の資料集成（その1）」『生産の考古学』同成社
- 8) 櫛原功一 1998「炭化種実から探る食生活－古代～中世を中心に－」『遺跡・遺物から何を讀みとるか（Ⅱ）－食の復元－』
- 9) 小林正史・柳瀬昭彦 2002「コゲとススからみた弥生時代の米の調理方法」『日本考古学』第13号 日本考古学協会
- 10) 直良信夫 1956『日本古代農業発達史』さ・え・ら書房
上原正人・川端清倫 2000「平塚市真田・北金目遺跡群」『第24回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学会ほか

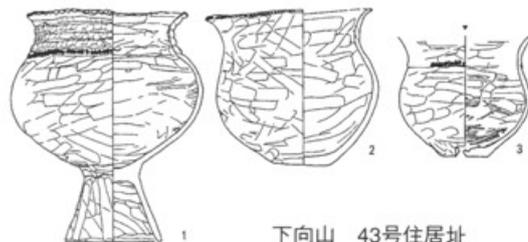
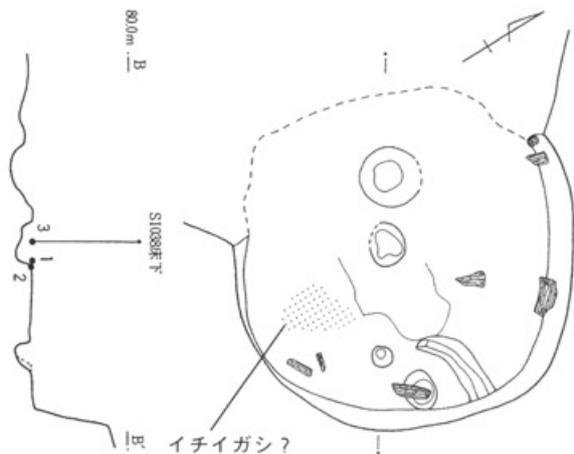
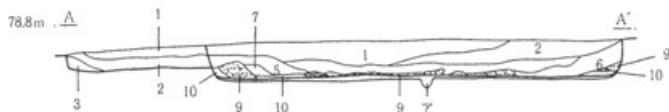
- 11) 小清水卓二 1963「古代日本の住居跡から出土する桃核について」『近畿古文化論攷』 榎原考古学研究所
 大山真充 1994「桃」『同志社大学考古学シリーズVI考古学と信仰』同志社大学考古学シリーズ刊行会
 江浦洋 1996「古代の土地開発と地鎮め遺構」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第7集』 帝京大学山梨文化財研究所
- 12) 芝山町小原子遺跡における8世紀前半の「竈神」墨書の出土などから、当時一般の集落においても竈神に対する信仰が広まっていたことが窺われる。また、カマドに対する祭祀行為についてはカマド内から出土する土器類や祭祀遺物と考えられる遺物のあり方などから総合的に理解する必要があるが、今回は特に触れることはしなかった。
- 13) 長野県立歴史館 2001『信濃の風土と歴史⑦食-とる・つくる・たべる』
- 14) 渡部忠世氏も弥生時代のコメ消費量は高くは見積れないとしている。
 渡部忠世 1987「アジアの視野からみた日本稲作」『稲のアジア史』3小学館
 寺沢薫 1986「稲作技術と弥生の農業」『日本の古代4 縄文・弥生の生活』中央公論社
 寺沢薫 1991「弥生時代の植物質食料」『各地域における米づくりの開始』 埋蔵文化財研究会



本名輪 7号住居址



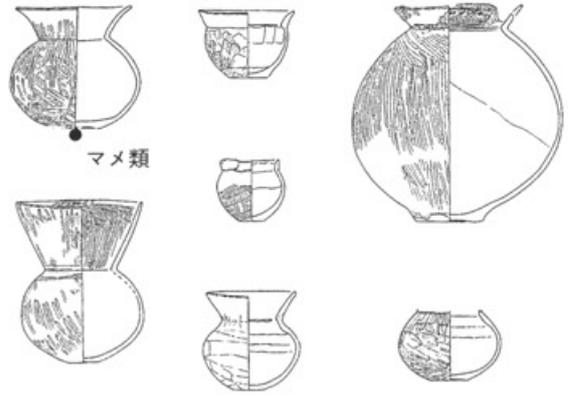
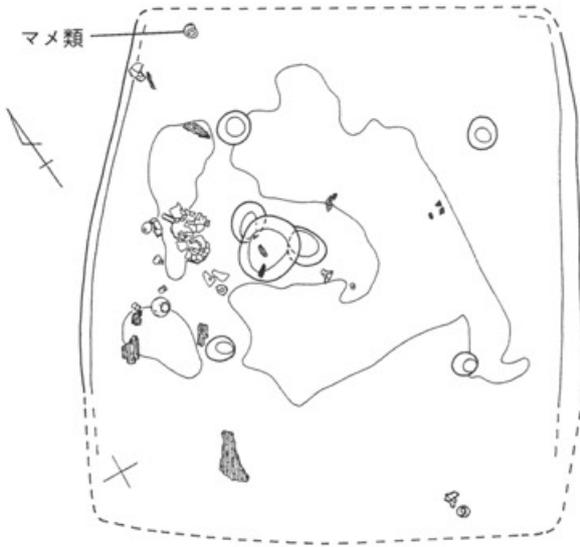
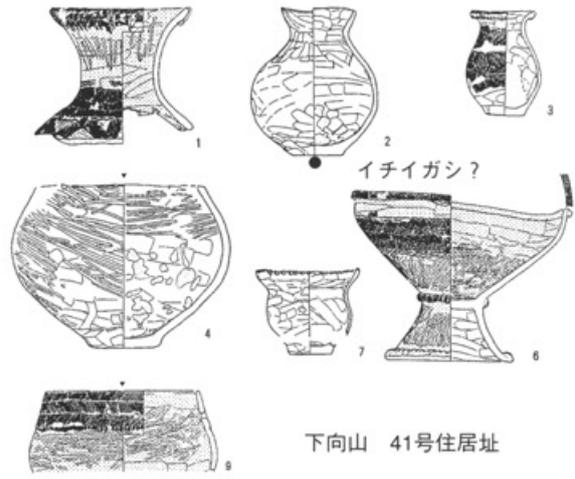
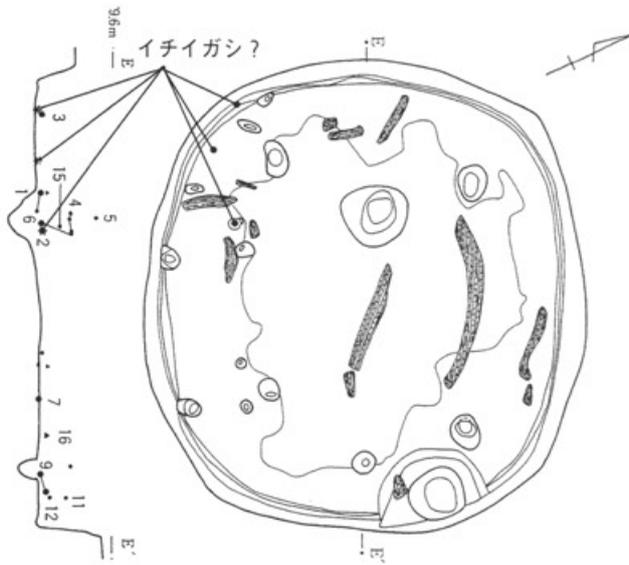
下向山 33号住居址



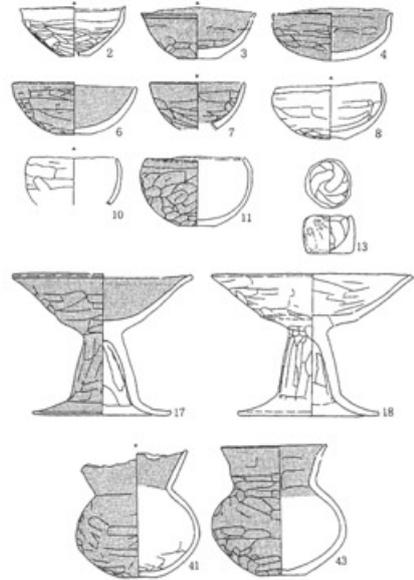
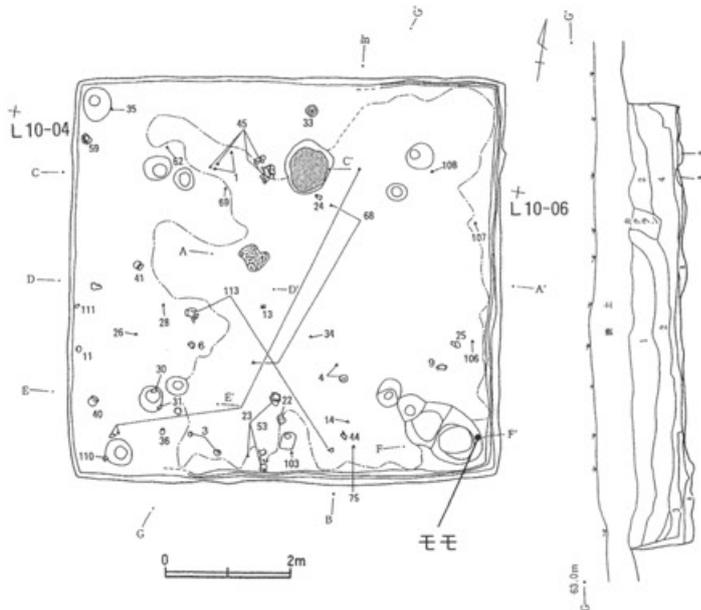
下向山 43号住居址



第84図 炭化種子出土遺構 (1)

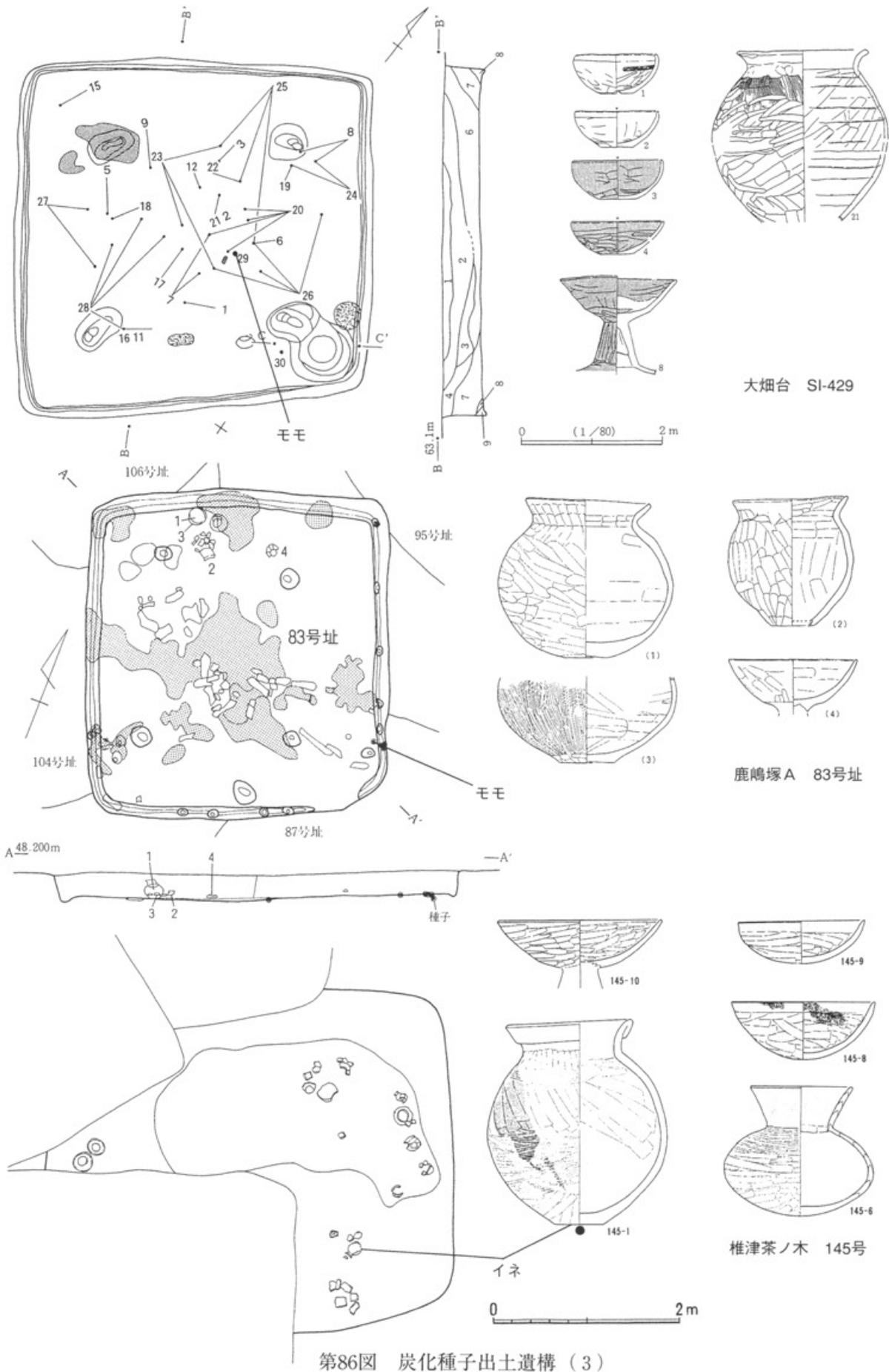


0 (1/80) 2m

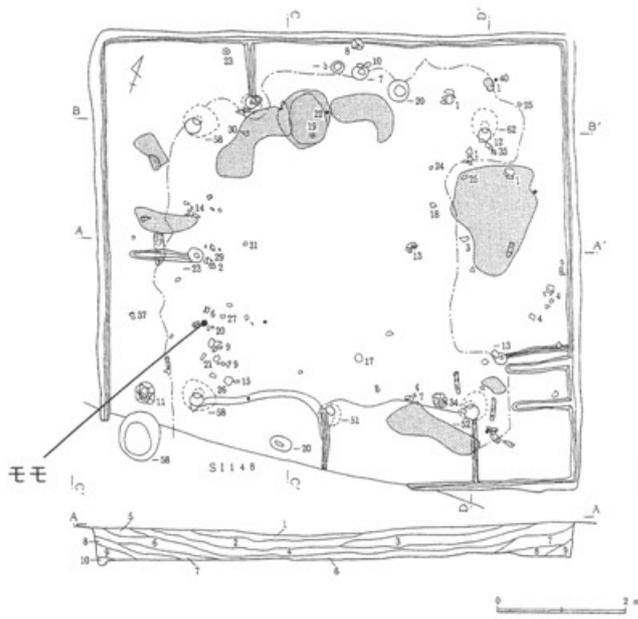


大畑台 SI-174

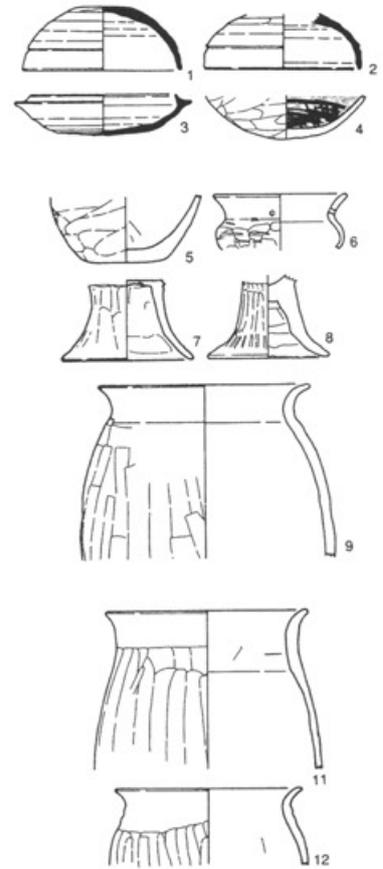
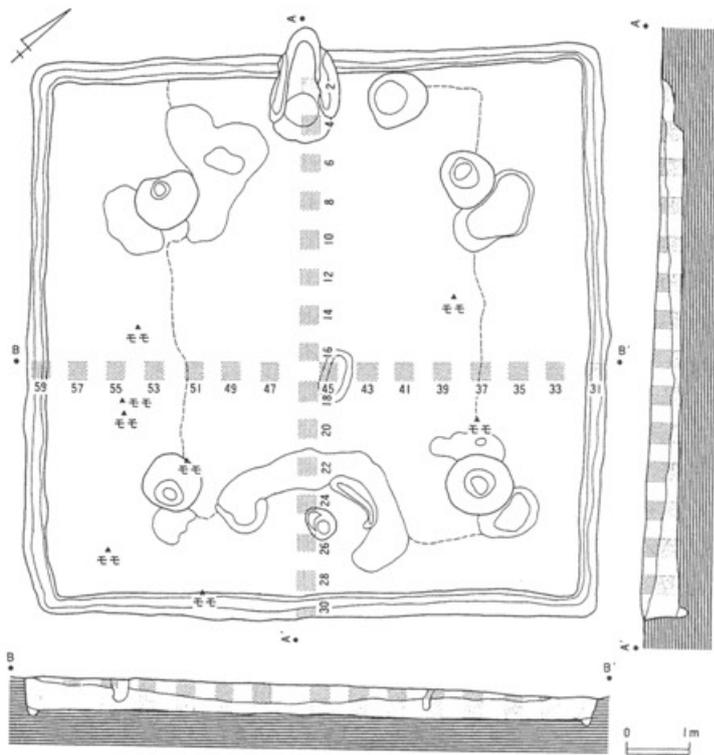
第85図 炭化種子出土遺構 (2)



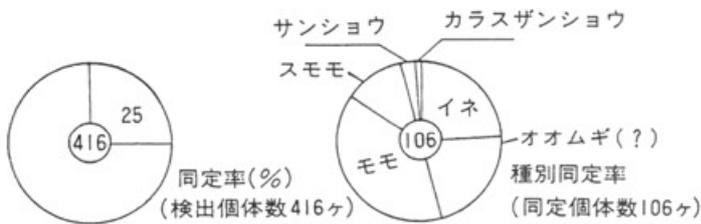
第86図 炭化種子出土遺構 (3)



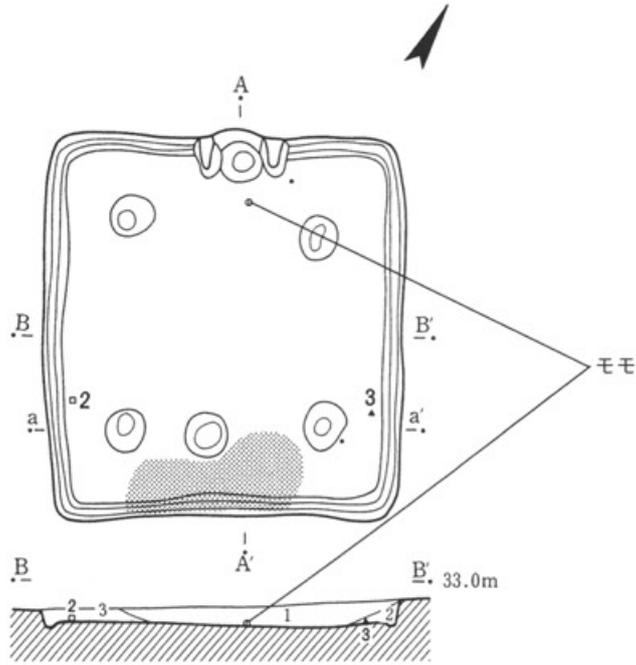
野焼A SI170



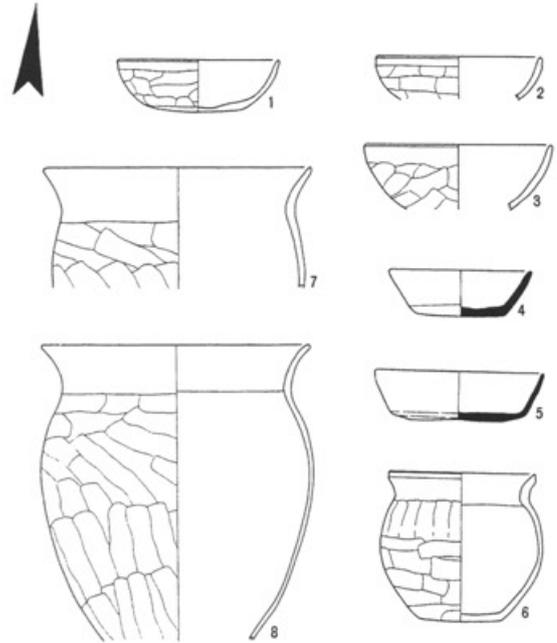
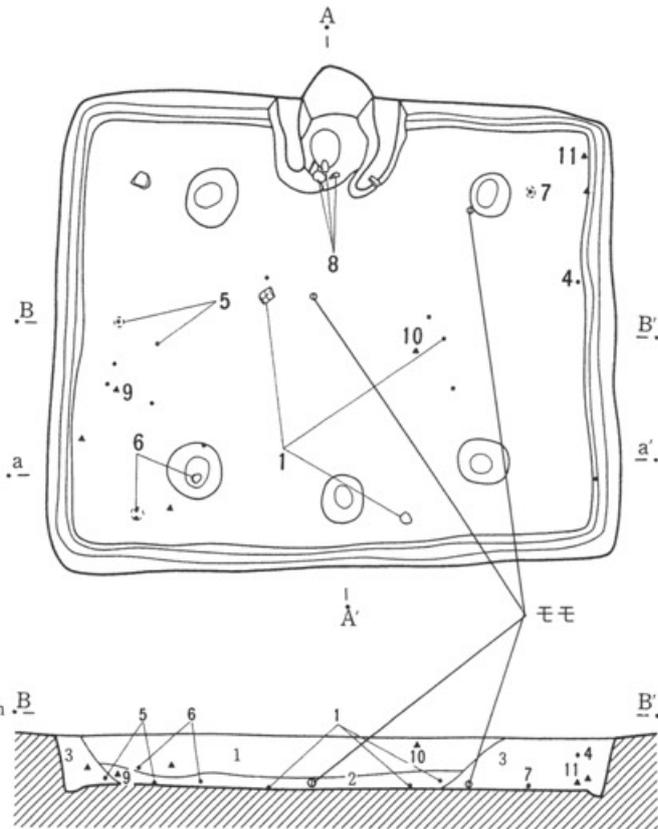
有吉北貝塚 SB-163



第87図 炭化種子出土遺構 (4)



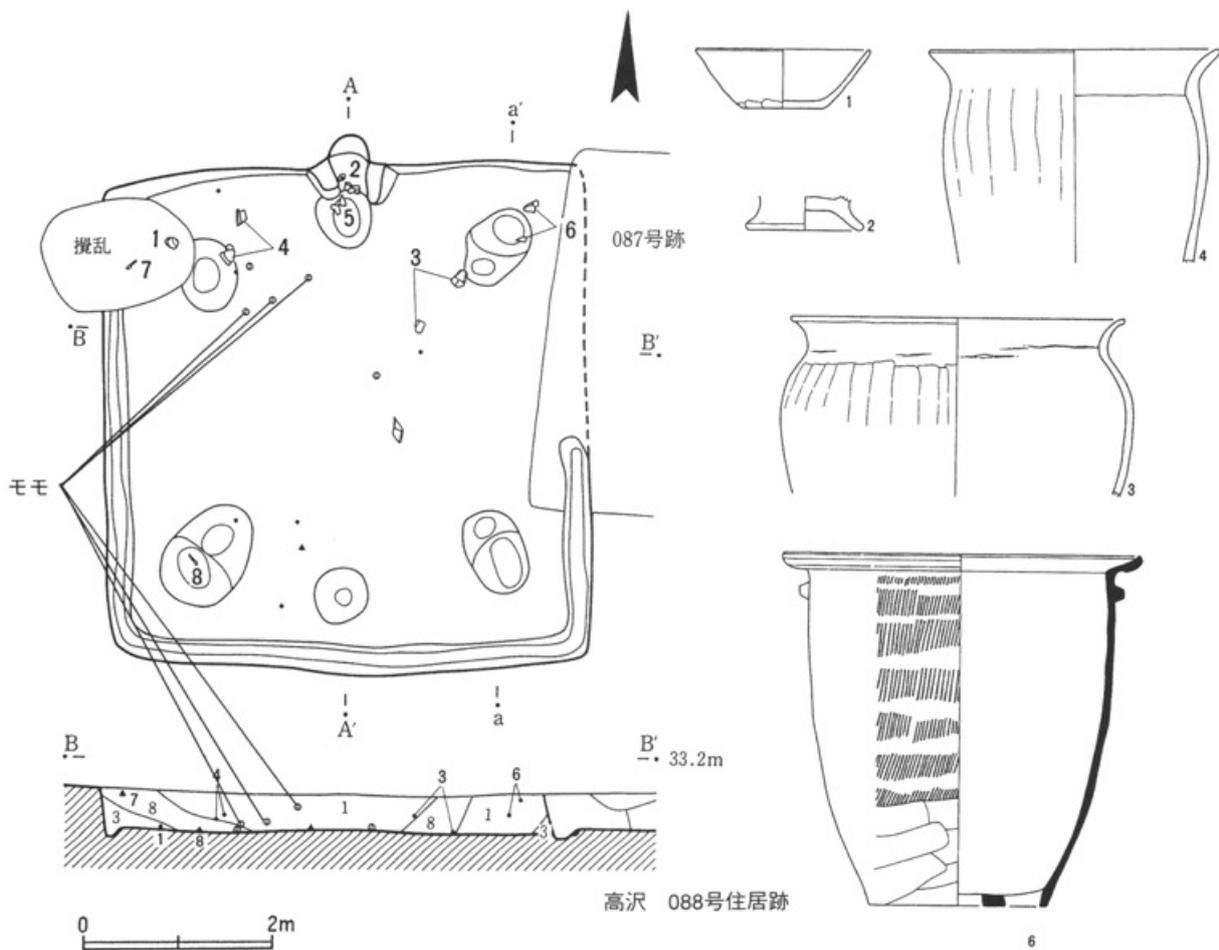
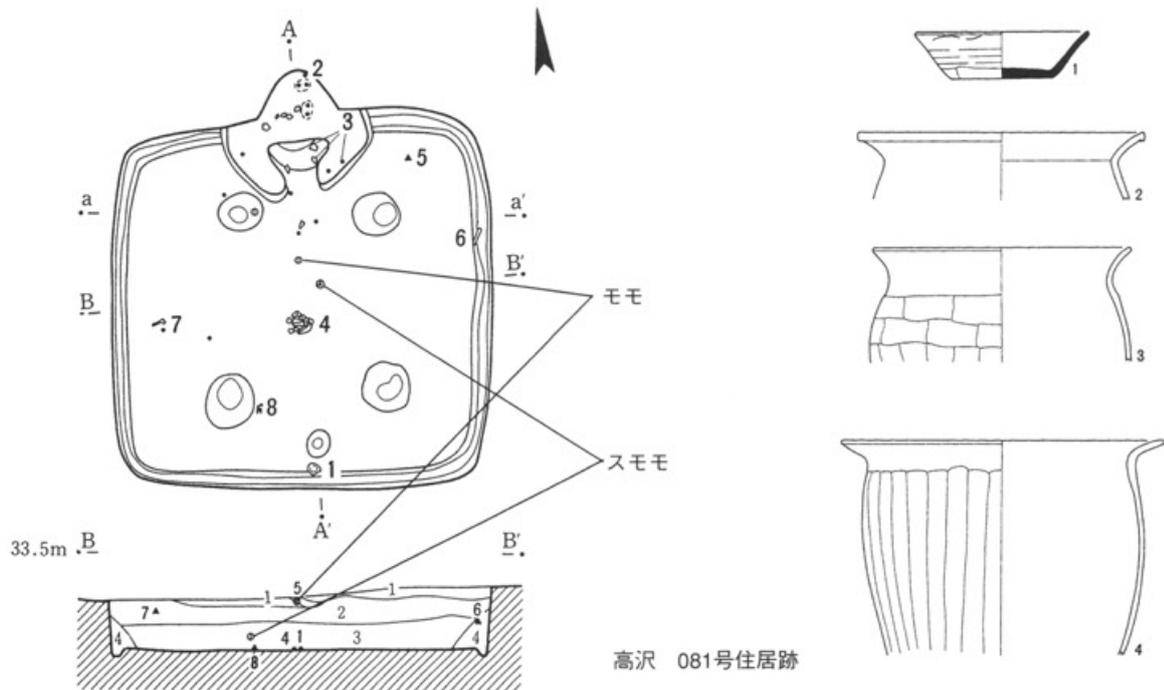
高沢 022号住居跡



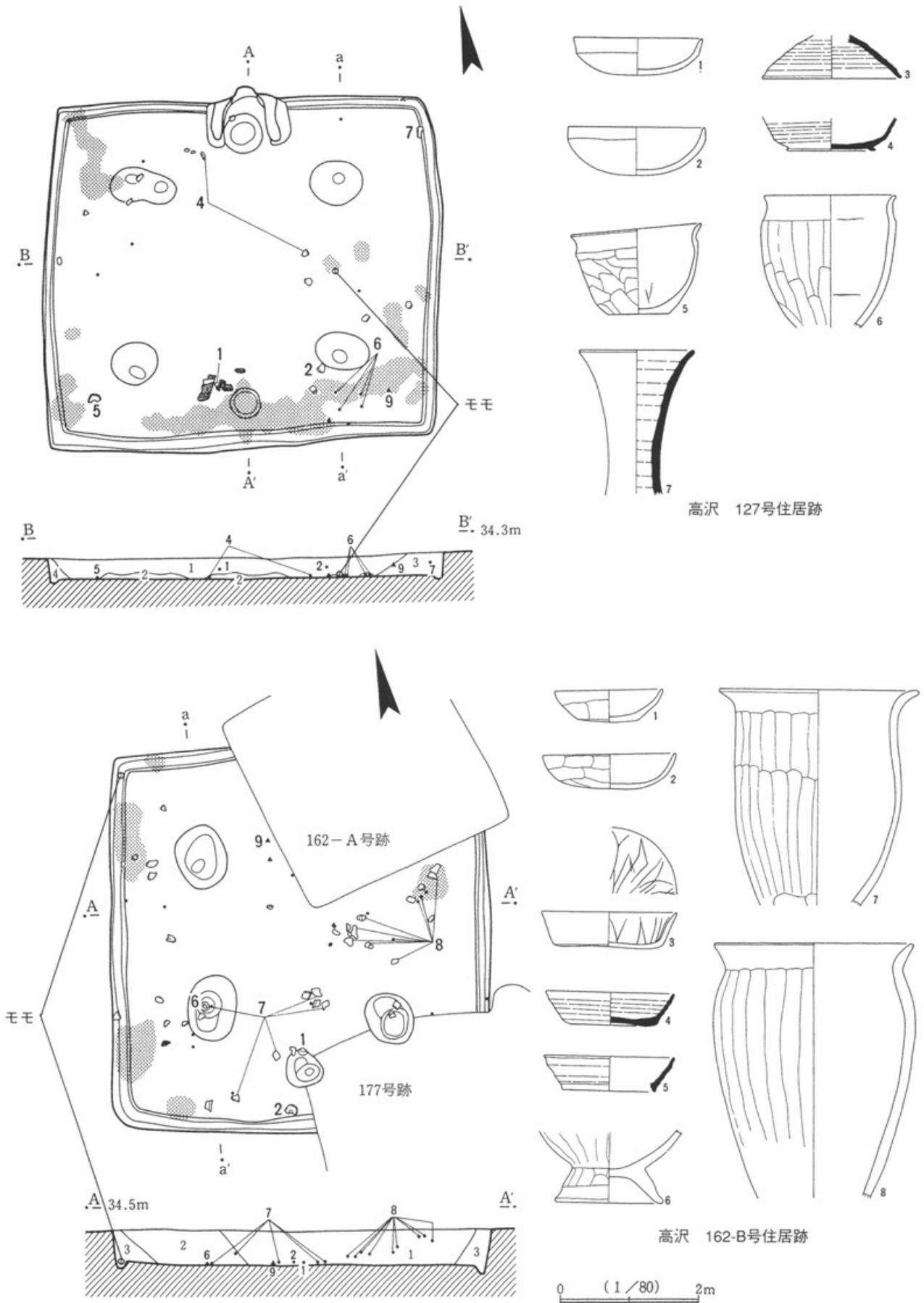
高沢 046号住居跡



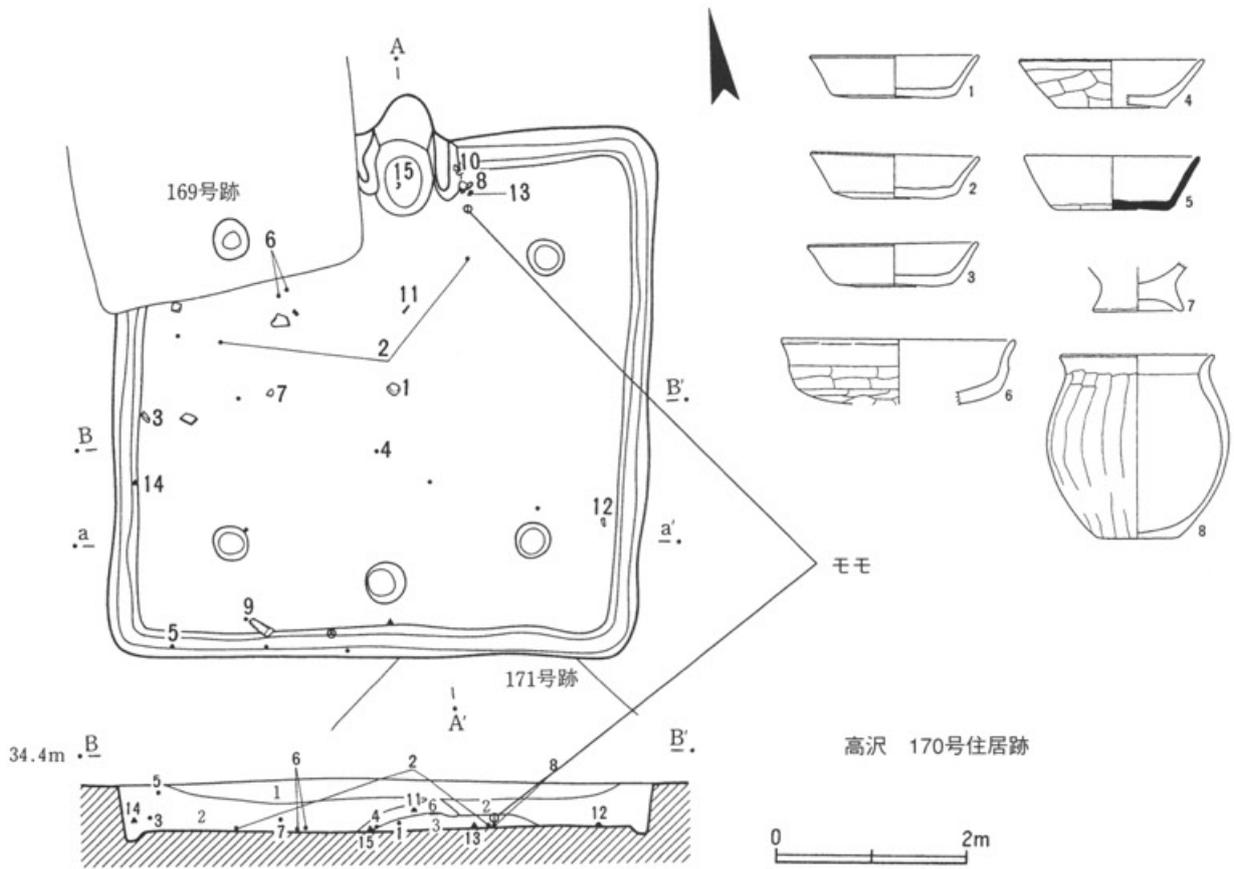
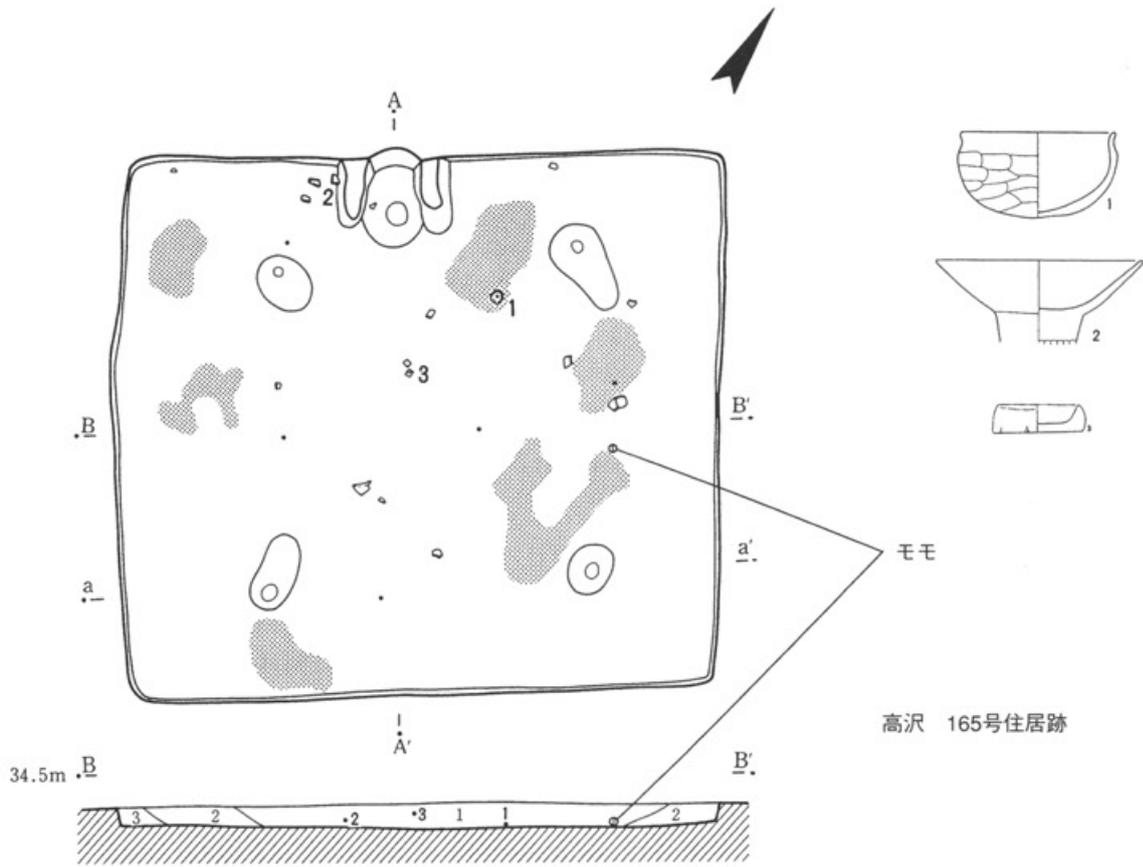
第88図 炭化種子出土遺構（5）



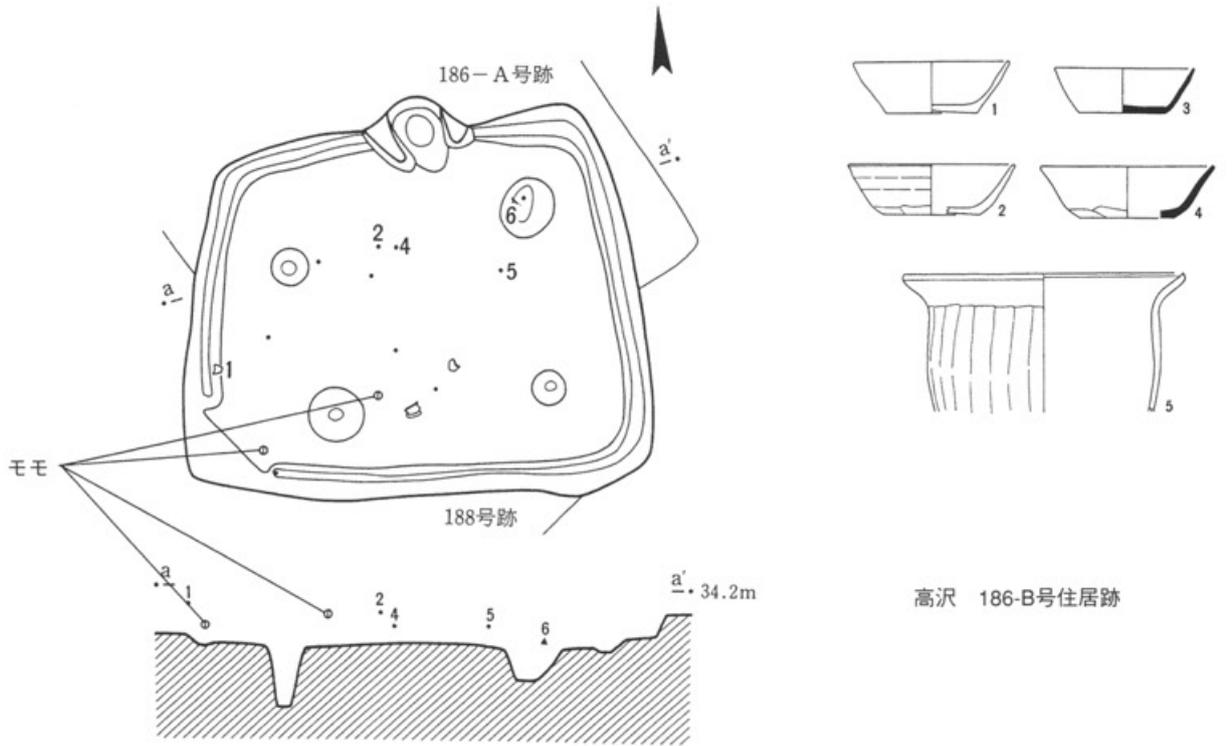
第89図 炭化種子出土遺構(6)



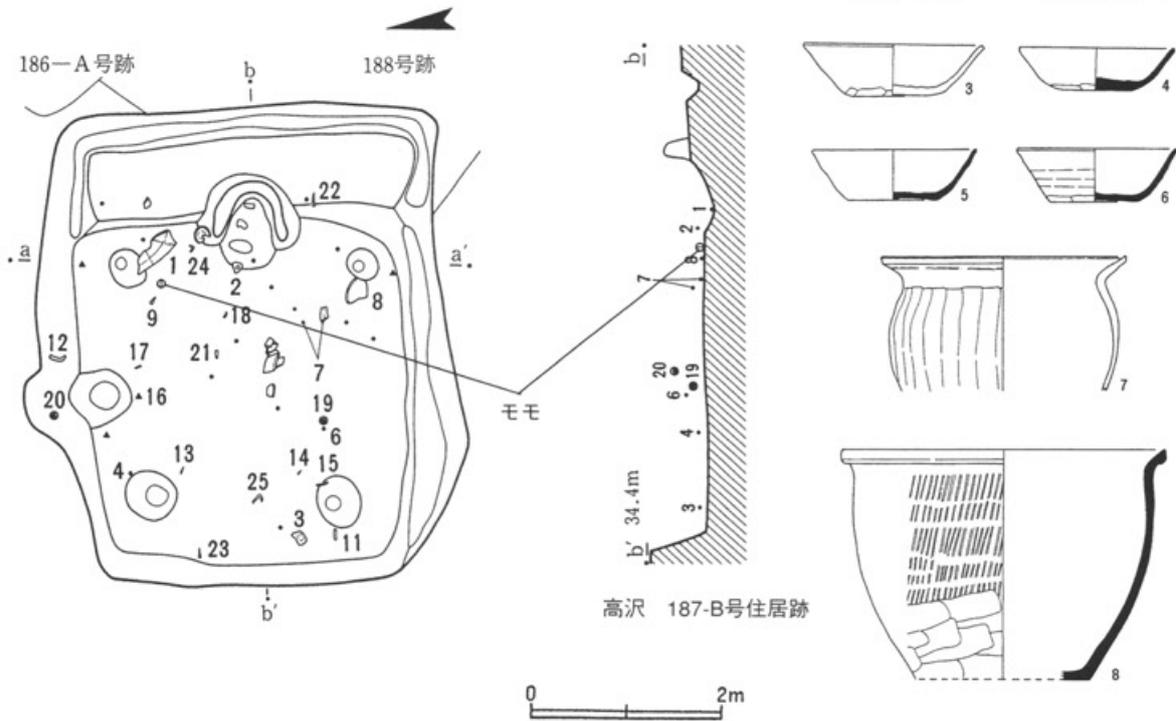
第90図 炭化種子出土遺構 (7)



第91図 炭化種子出土遺構 (8)

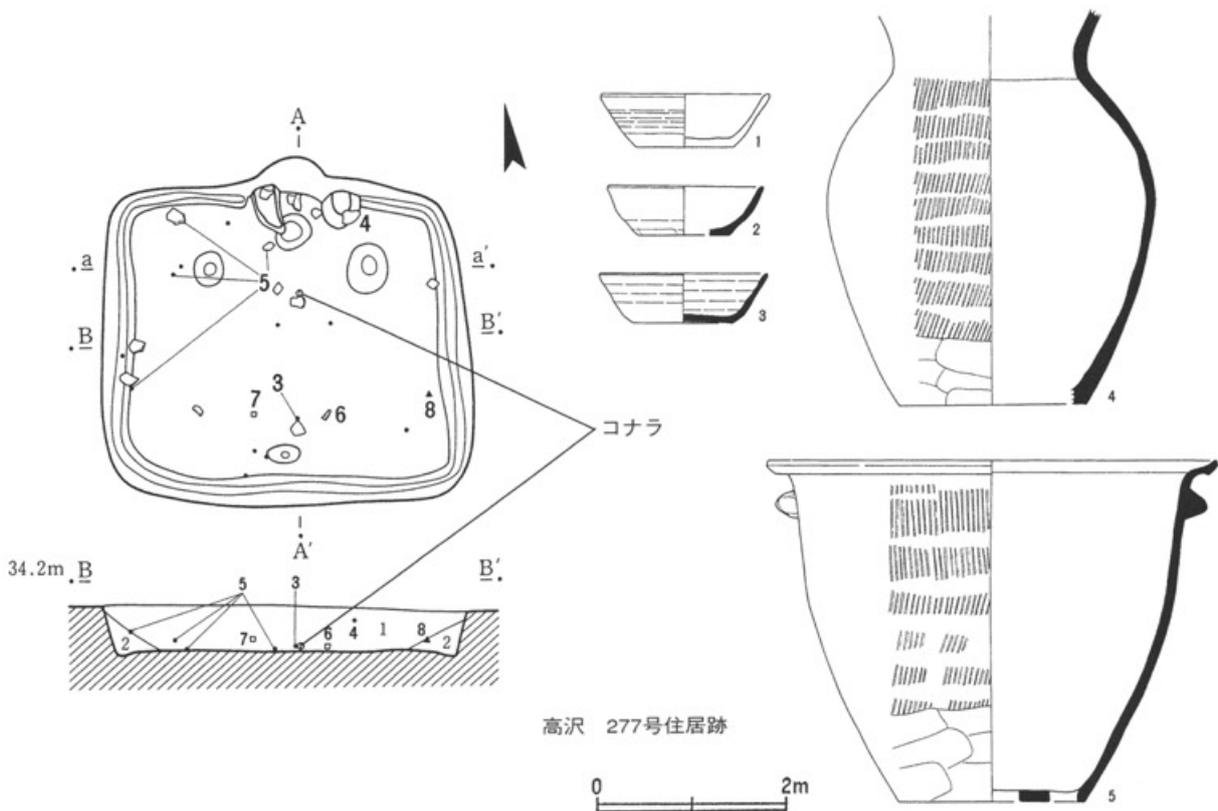
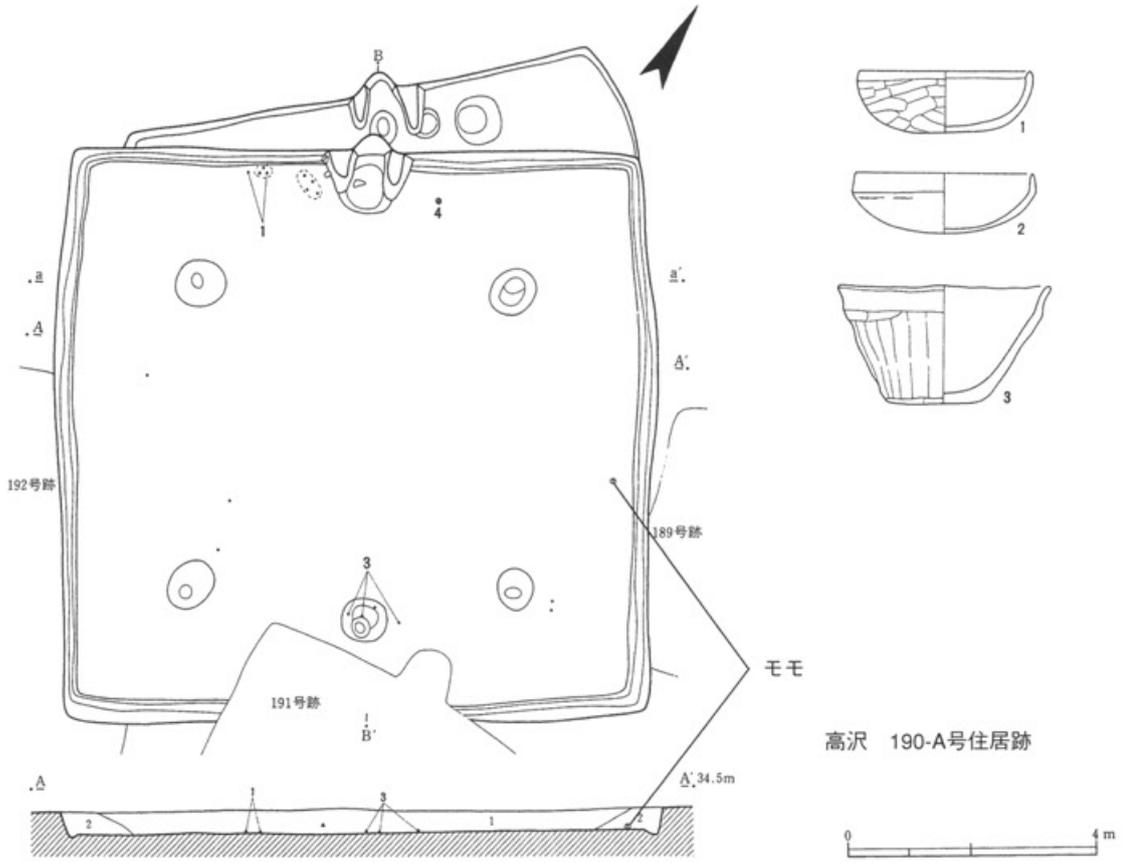


高沢 186-B号住居跡

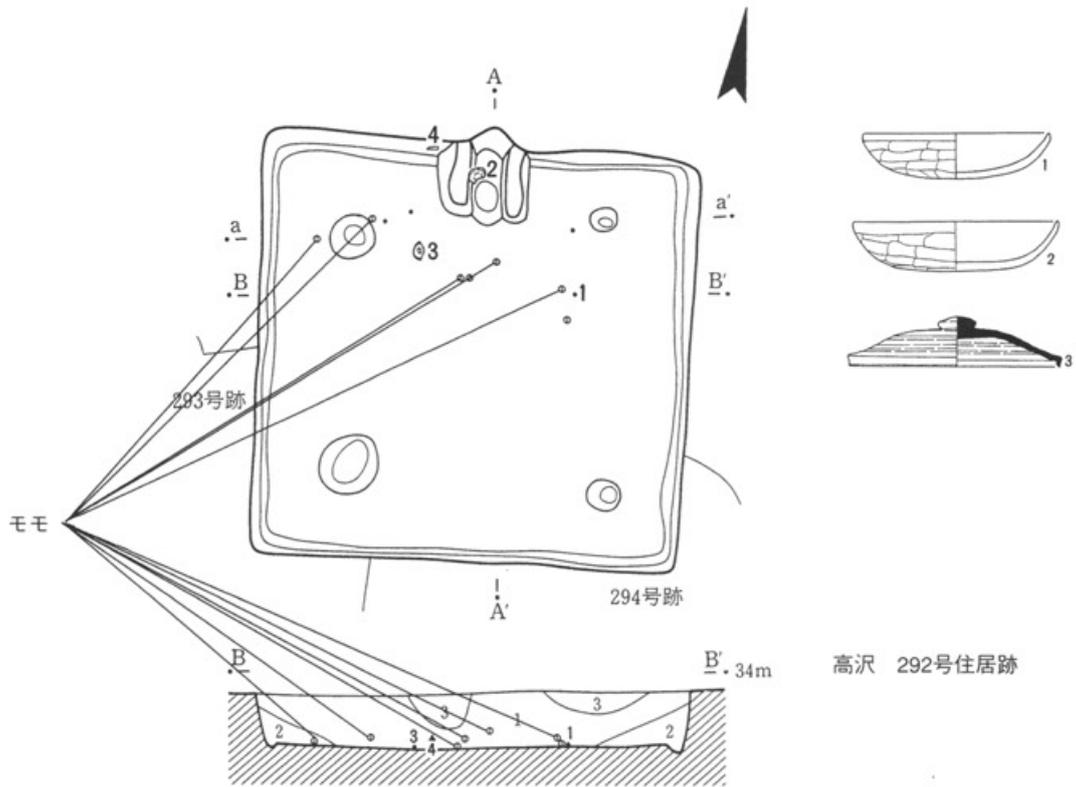


高沢 187-B号住居跡

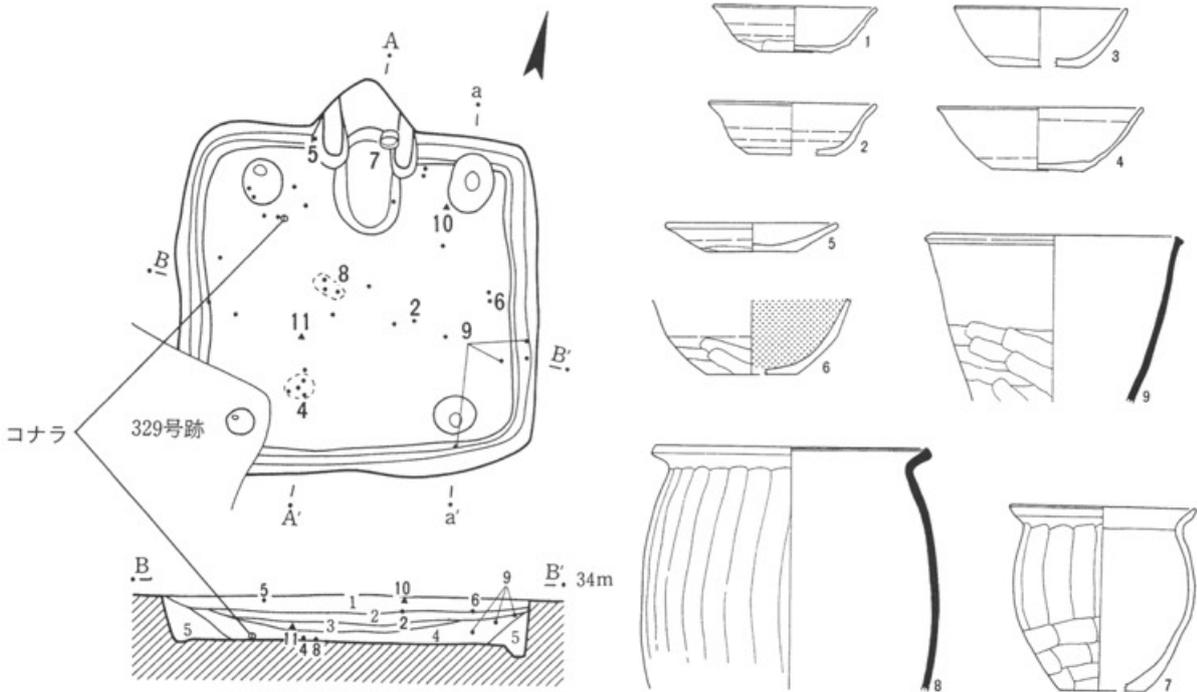
第92図 炭化種子出土遺構 (9)



第93図 炭化種子出土遺構 (10)



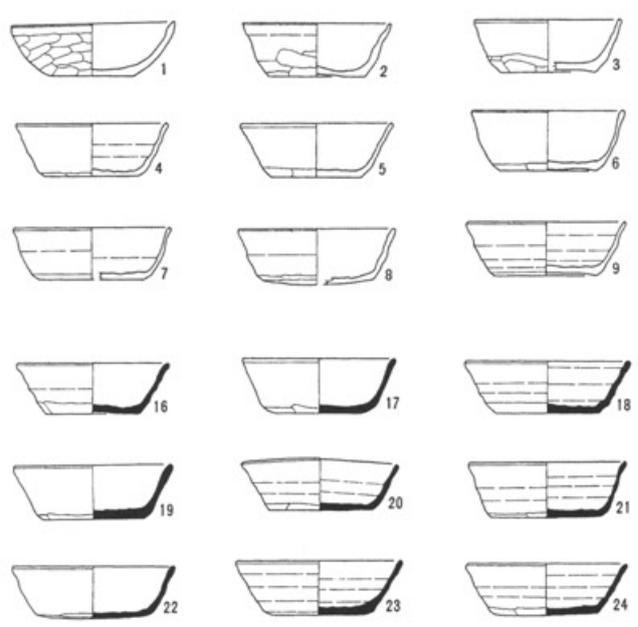
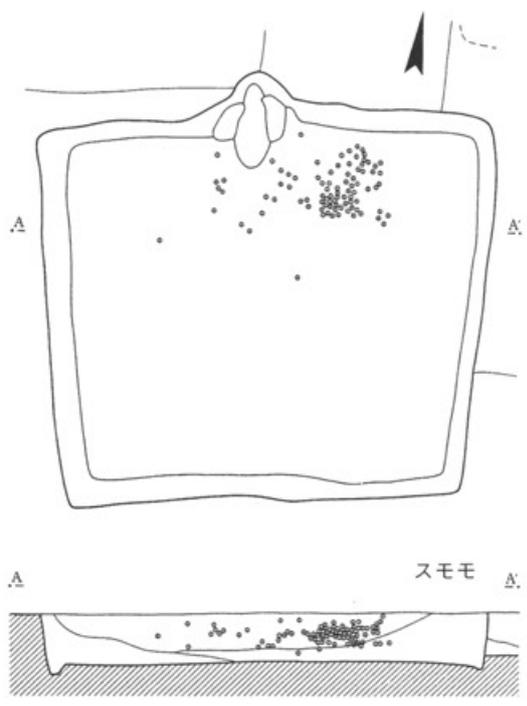
高沢 292号住居跡



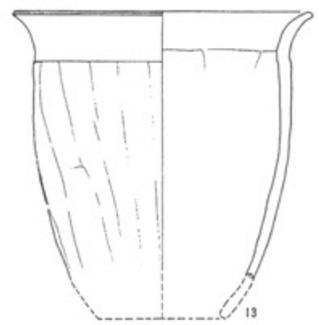
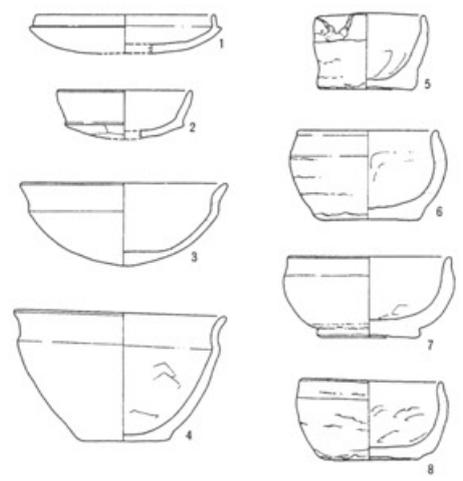
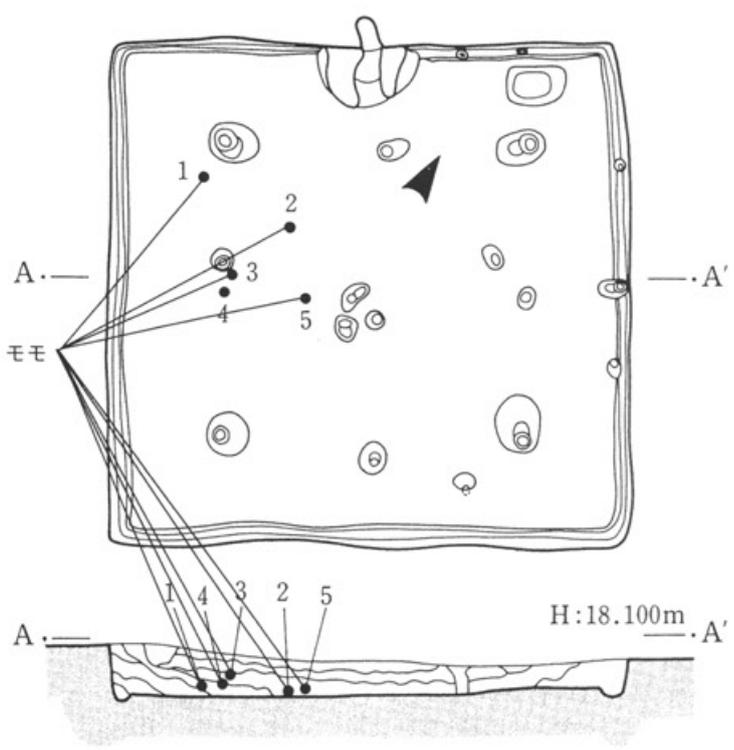
高沢 297号住居跡

0 2m

第94図 炭化種子出土遺構 (11)

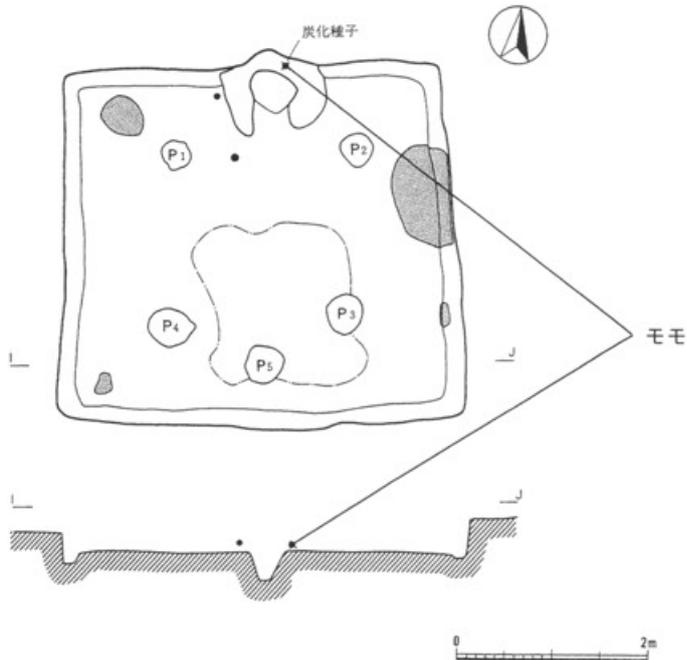
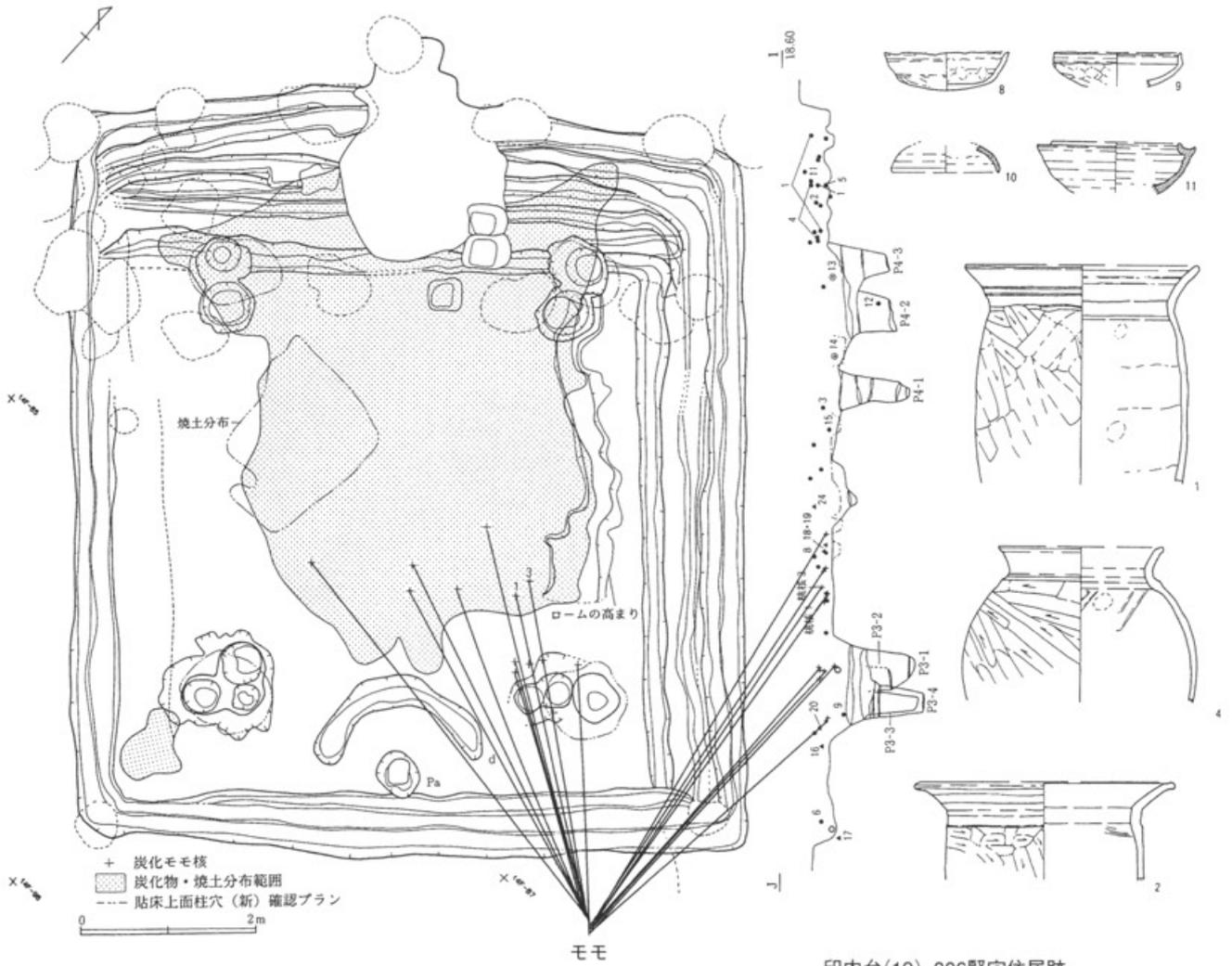


高沢 324号住居跡

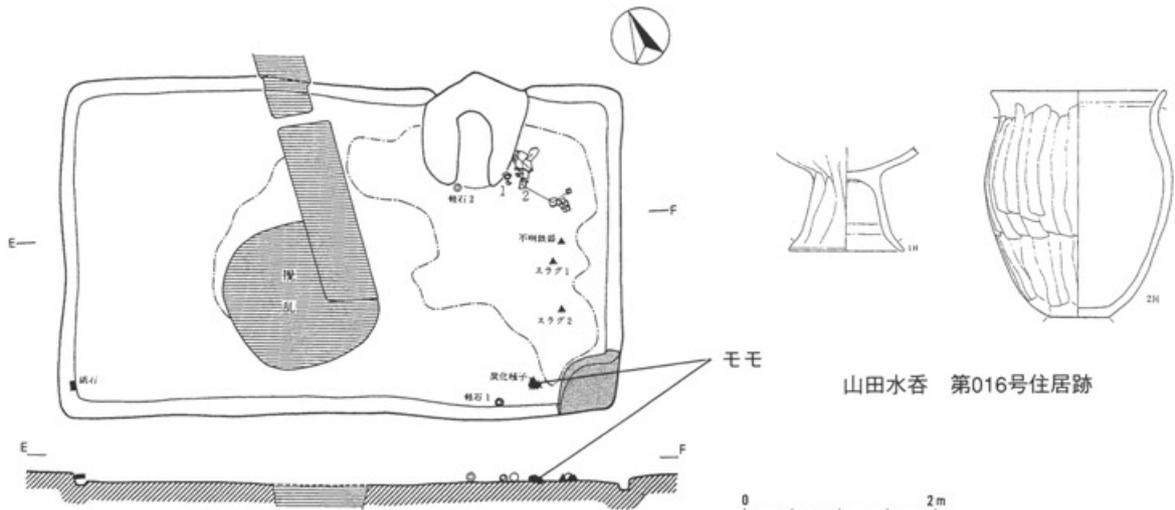


大井東山 竪穴住居 031

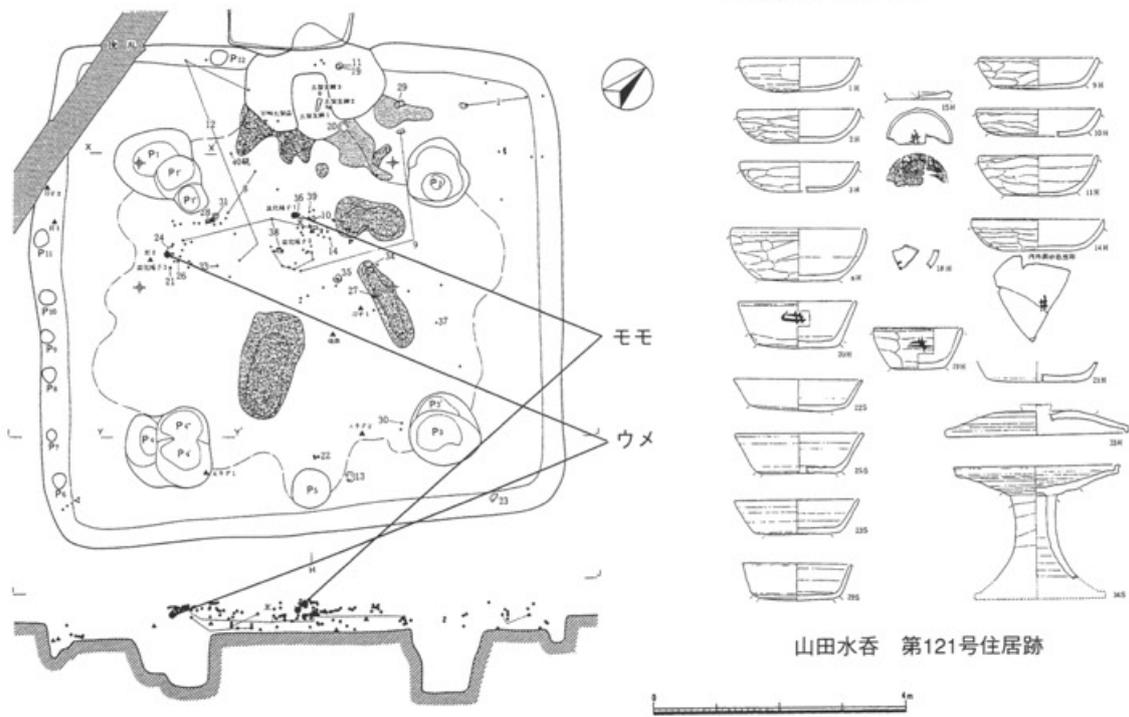
第95図 炭化種子出土遺構 (12)



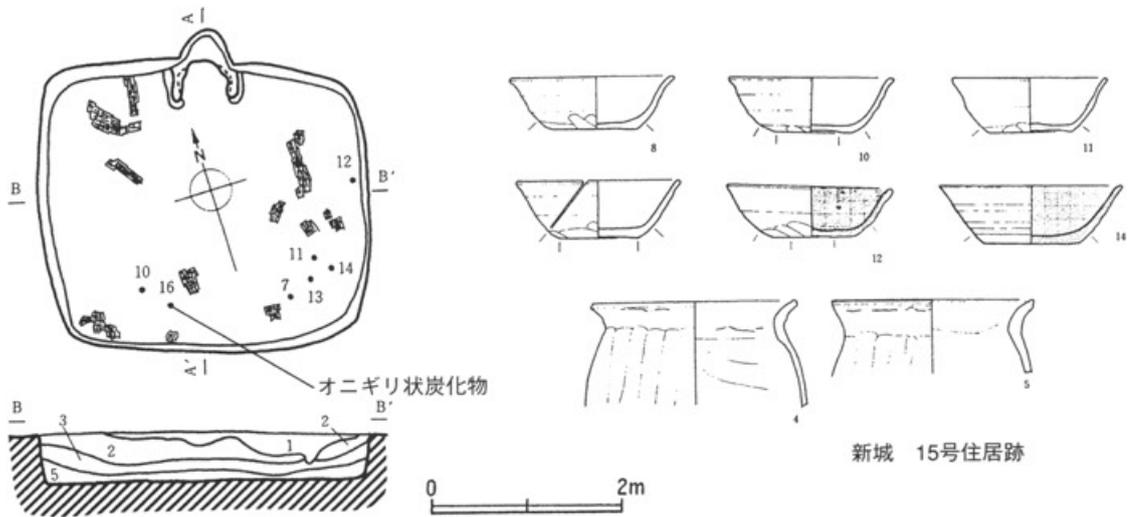
第96図 炭化種子出土遺構 (13)



山田水呑 第016号住居跡

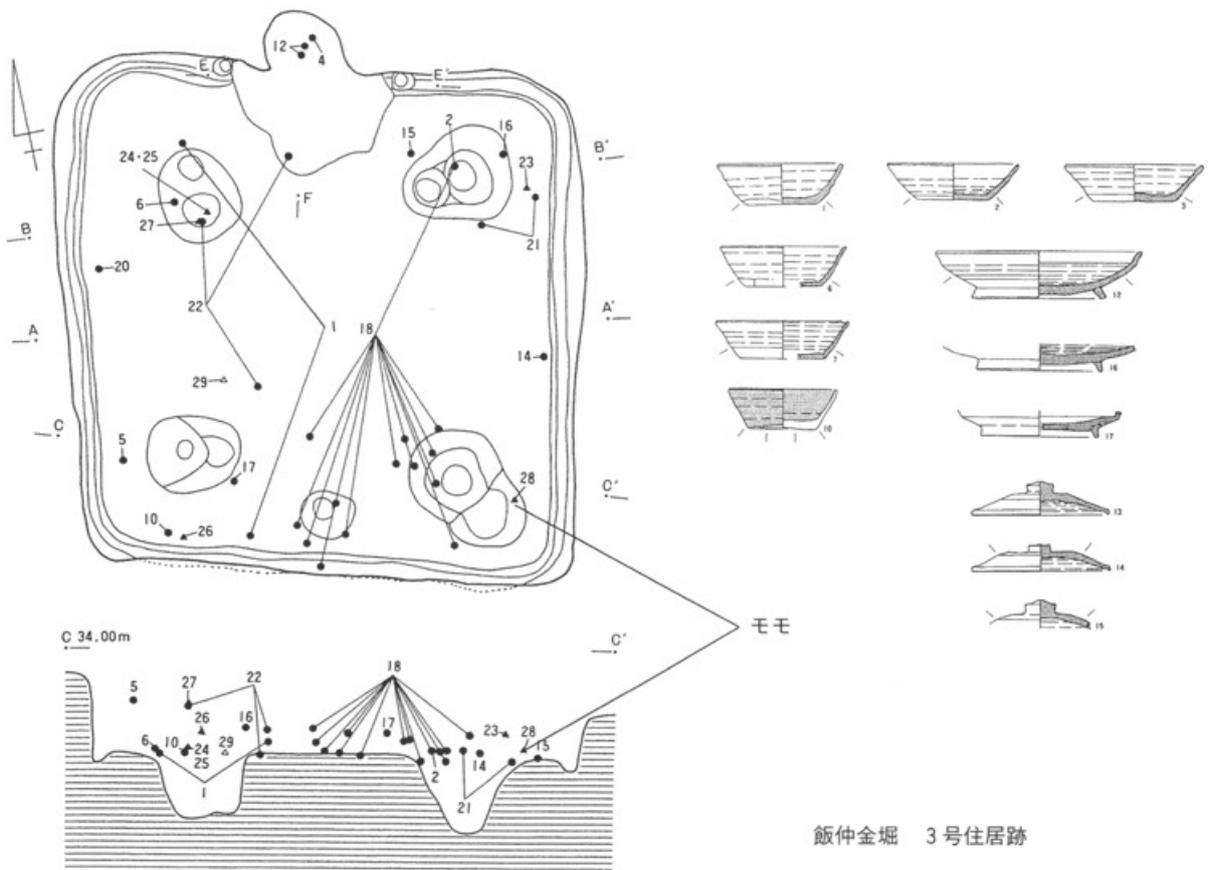
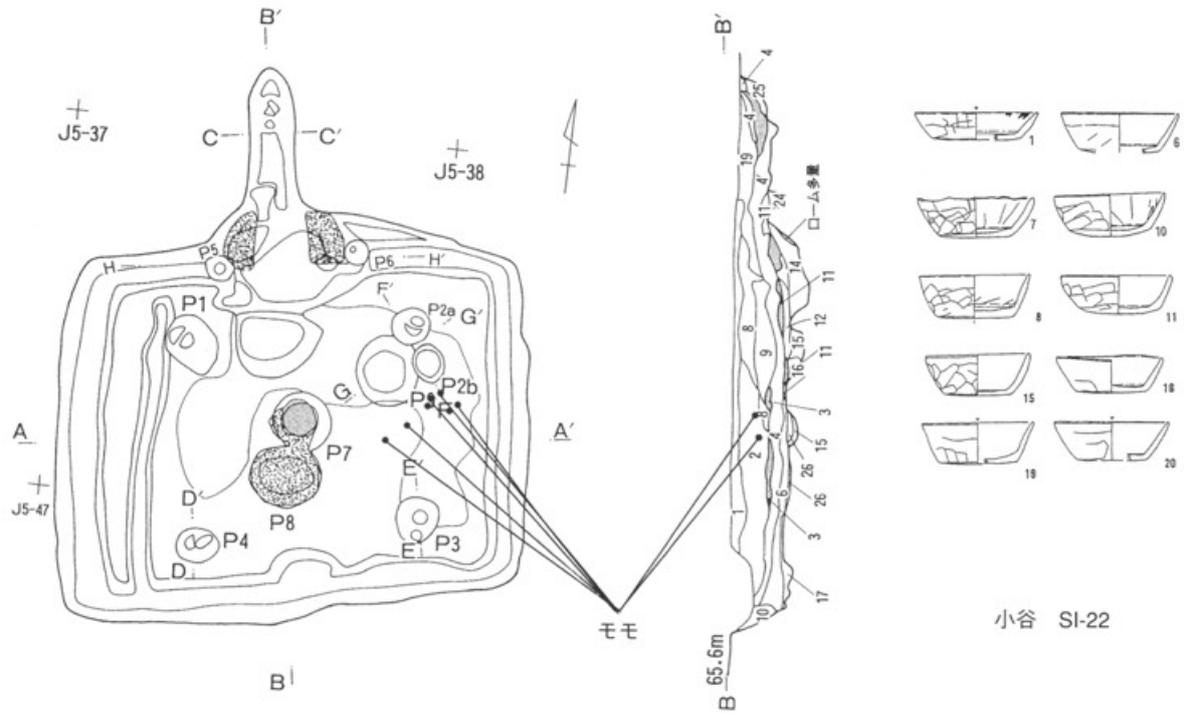


山田水呑 第121号住居跡

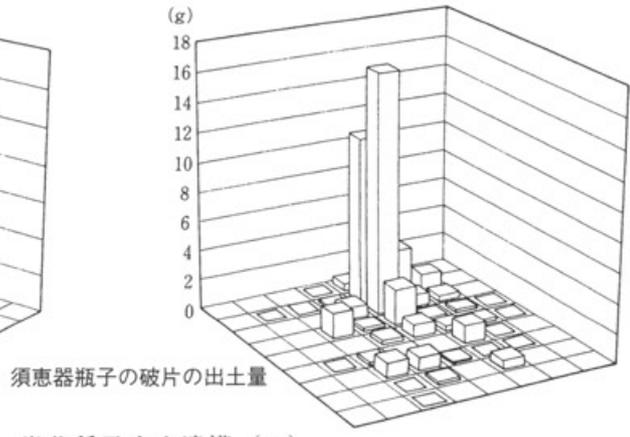
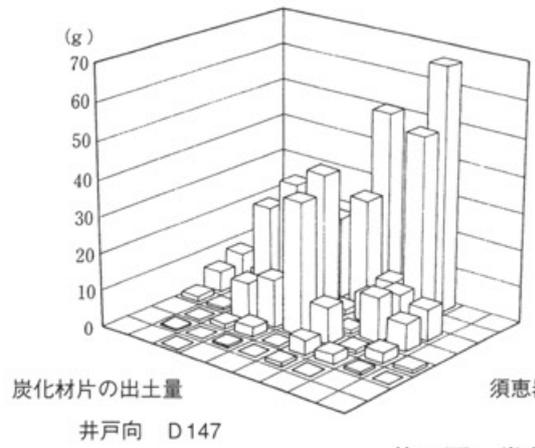
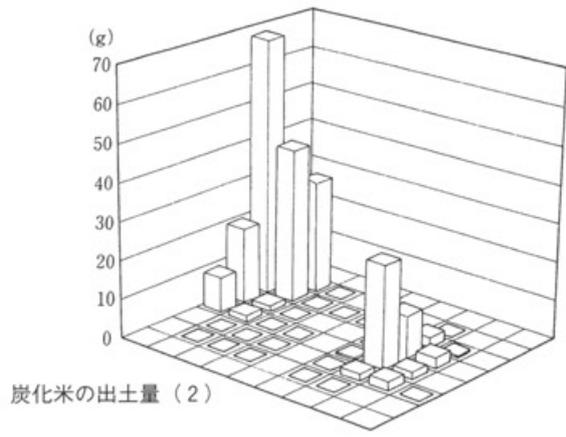
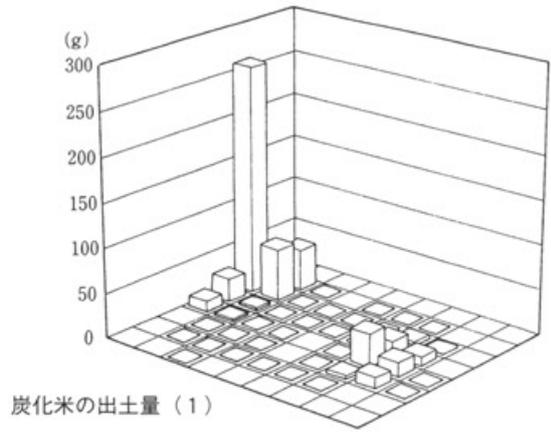
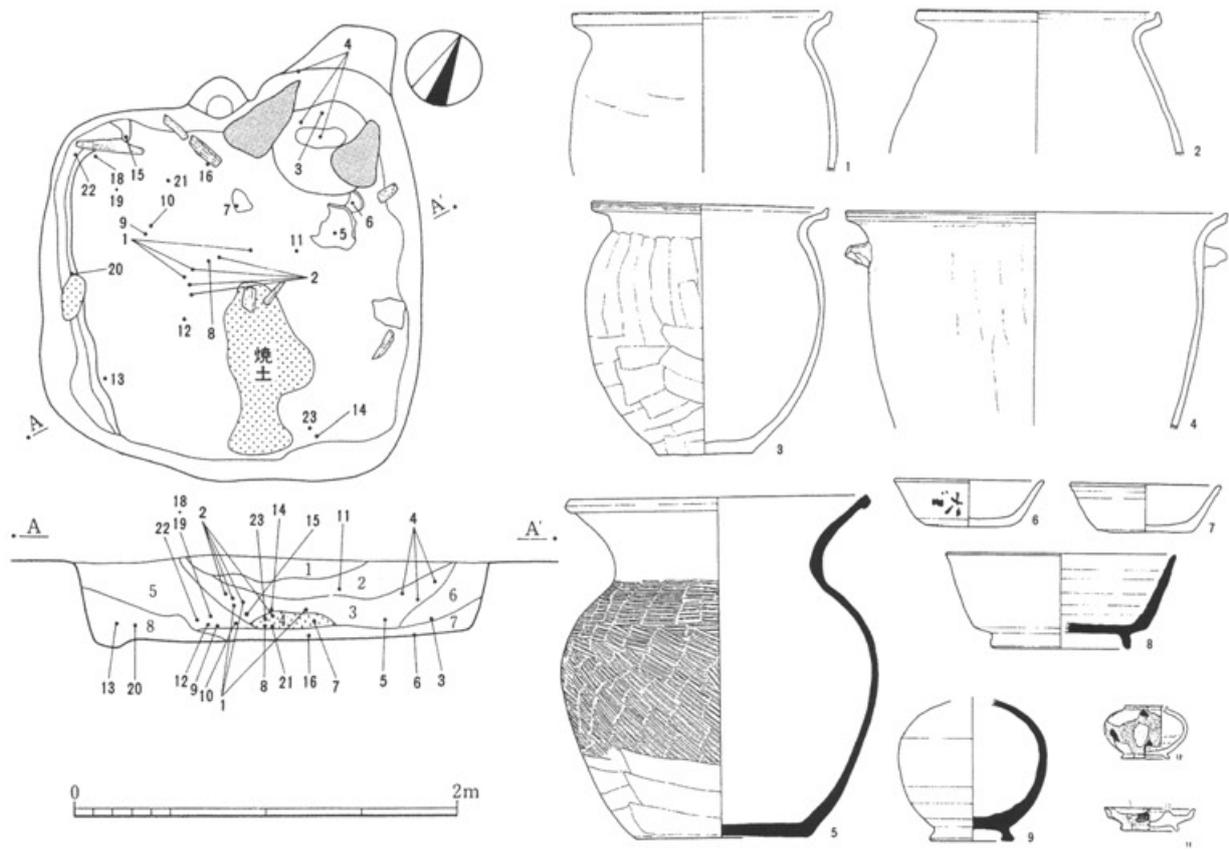


新城 15号住居跡

第97図 炭化種子出土遺構 (14)



第98図 炭化種子出土遺構 (15)



第99図 炭化種子出土遺構 (16)

附章 資料・データ集

資料、文献ともに、データは平成14年3月末までに管見に触れたものを掲載した。

1 関連資料

資料は①農耕関連遺跡、②鉄製農耕具、③炭化種子等の3項目について作成した。なお、木製農耕具と石製農耕具については資料数に比して遺跡数が少ないので、今回は作成しなかった。

時期区分については、文献目録（論文・書籍等）のカテゴリ6.-③に掲げた文献に拠った。

本表の文献コードは、行先頭の報告書コードを示す。

1) 農耕関連遺跡

県内の調査例のある全遺跡について、市町村順に、農耕遺構・農耕具（木製・鉄製・石製）・炭化種子が検出されているものを掲載した。農耕遺構についてはその内容、農耕関連遺物についてはその有無を示した。○は検出されているもの、-は検出されていないものを示す。

2) 鉄製農耕具出土一覧

時代順に配列した。各遺構ごとに器種別に点数を示したが、各器種の区分と形式分類については本文を参照されたい。

3) 炭化種子出土一覧

時代順に配列した。内容には栽培植物種以外にも食用として利用したと考えられる種も掲載した。

分析者はそれぞれ、百原（百原新）、松谷（松谷暁子）、PS（パリノ・サーヴェイ）、新山（新山雅広）、佐藤（佐藤敏也）、山内（山内文）、辻/辻（辻圭子/辻誠一郎）、重田/北島（重田実/北島正博）、直良（直良信夫）、南木/辻（南木睦彦/辻誠一郎）、粉川（粉川昭平）、永嶋（永嶋正春）、木村（木村達明）を示す。

遺構種別は、住居（竪穴住居跡）、掘立（掘立柱建物跡）、地下坑（地下式坑）、G（グリッド）、T（トレンチ）を示す。

2 文献目録

1) 論文・書籍等

各カテゴリ別に、年代順に配列した。原則として発掘調査報告書は除外したが、特に重要な論考などが付されているものについては掲載した。カテゴリは、1. 農耕文化・社会・生業全般に関するもの、2. 農耕に関するもの（①稲作、②畠作、③治水）、3. 遺構に関するもの（①水田遺構、②畠遺構、③治水・利水遺構）、4. 農耕具に関するもの（①鉄製農耕具、②木製農耕具、③石製農耕具、④その他農耕具）、5. 作物に関するもの（①イネ、②雑穀類、③畠作物）、6. その他（①古環境、②自然化学分析、③時期区分）である。

2) 報告書等

県内各財団が発行した報告書は、財団ごとに発行（シリーズ番号）順に配列した。それ以外のは各市町村別に発行年順に配列した。報告書以外の文献（年報・資料紹介・現地説明会資料）は発行主体ごとに発行順に配列した。

例えば、B001.005.1977『京葉I ～東寺山石神遺跡』の場合、「B001」が本書における報告書コード、「005」がシリーズ番号、「1977」が発行年、「I」が書名である。

1 関連資料

1) 農耕関連遺跡

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
小中台		千葉市稲毛区小中台町	-	-	○	-	-	B043	
牛尾井		千葉市稲毛区小中台町	-	-	○	-	-	I014	
駒形		千葉市稲毛区作草部町	-	-	○	-	-	M016	
下田		千葉市稲毛区園生町	-	-	○	-	-	I015	
養輪		千葉市花見川区畑町	-	-	○	-	-	B026	
居寒台		千葉市花見川区浪花町	-	-	○	-	-	M063	
上ノ台		千葉市花見川区暮張町	-	-	○	-	-	L011	
定原		千葉市花見川区宮野木町	-	-	○	-	-	M033	
新田		千葉市中央区葛城町	-	-	○	-	-	I008	
宮崎第1		千葉市中央区宮崎町	-	-	○	-	-	A001	
大北		千葉市中央区宮崎町	-	-	○	-	-	B039	
大森第1		千葉市中央区宮崎町	-	-	○	-	-	B025,I012	
大森第2		千葉市中央区大森町	-	-	○	-	-	A001	
仁戸名	H4/5	千葉市中央区仁戸名町	-	-	○	-	-	I009	
覆作		千葉市中央区赤井町	-	-	○	-	-	B066	
荒久(i)		千葉市中央区青葉町	-	-	○	-	-	B051	
谷津		千葉市中央区花輪町	-	-	○	-	-	L012	
池田古墳群		千葉市中央区花輪町	-	-	○	-	-	B039	
瓜作		千葉市中央区花輪町	-	-	○	-	-	B039	
観音塚		千葉市中央区千葉寺町	-	-	○	-	-	B025,b002	
鷺谷津	D区	千葉市中央区千葉寺町	畦畔・水田面・水路(中世)	-	○	-	-	B025 B025	
村田服部		千葉市中央区村田町	-	○	○	-	○	B027	
生実城跡		千葉市中央区生実町	-	-	○	-	-	I018	
種ヶ谷津		千葉市中央区生実町	-	-	○	-	-	B087	
浜野川神門		千葉市中央区生実町	畦畔(古代～中世)	○	-	-	-	B048,B053	
東寺山石神		千葉市若葉区東寺山	-	-	○	-	○	B001	
東寺山戸張作		千葉市若葉区東寺山	-	-	○	-	-	B002	
戸張作		千葉市若葉区東寺山	-	-	○	-	-	I017	
城の腰		千葉市若葉区大宮町	-	○	-	-	○	B006	
西屋敷		千葉市若葉区大宮町	-	-	○	-	○	B006	
稲荷台		千葉市若葉区大宮町	-	-	○	-	-	I005	
立山城跡		千葉市若葉区大宮町	-	-	○	-	-	I006	
山王		千葉市若葉区原町	-	-	○	-	-	I011	
根崎		千葉市若葉区原町	-	-	○	-	-	B038	
高品城跡		千葉市若葉区高品町	-	-	○	-	-	I013	
高品第2		千葉市若葉区高品町	-	-	○	-	-	A001	
海老		千葉市若葉区みつわ台	-	-	○	-	-	I016	
西唐沢		千葉市若葉区中野町	-	-	○	-	-	B082	
立木南		千葉市若葉区加曾利町	-	-	○	-	-	I002	
南二重堀		千葉市緑区生実町	-	-	○	-	-	B017	
大道		千葉市緑区生実町	-	-	○	-	-	B019,B087	
高沢		千葉市緑区生実町	-	-	○	-	○	B056	
上赤塚古墳群	1号墳	千葉市緑区南生実町	-	-	○	-	-	B018	
稚名崎		千葉市緑区稚名崎町	-	-	○	-	-	B004	
稚名崎古墳群	SX-4	千葉市緑区稚名崎町	畑(古墳後期)	-	-	-	-	N004	後期古墳墳丘下
鎌取		千葉市緑区鎌取町	-	-	○	-	-	B067	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考	
				木製品	鉄製品	石器	種子			
六通		千葉市緑区大金沢町	-	-	○	-	-	B012		
ムコアラク		千葉市緑区小金沢町	-	-	○	-	-	B005		
有吉北貝塚		千葉市緑区有吉町	-	-	○	-	○	B091		
有吉南		千葉市緑区有吉町	-	-	○	-	-	B021		
馬ノ口	7号墳	千葉市緑区有吉町	-	-	○	-	-	B022		
清水作		千葉市緑区辺田町	-	-	○	-	-	B007		
中鹿子第2		千葉市緑区小山町	-	-	○	-	-	I007		
有吉		千葉市緑区有吉町	-	-	○	-	-	A006		
田向		千葉市緑区土気町	-	-	○	-	-	M029		
新山		千葉市緑区平山町	-	-	○	-	-	M018		
古台		千葉市緑区下大和田町	-	-	○	-	-	I001		
直道		千葉市花見川区	-	-	○	-	-	I010		
南かんみょう		千葉市若葉区中野町	-	-	○	-	-	M045		
日秀西		我孫子市日秀	-	-	○	-	○	B008		
日秀		我孫子市日秀	-	-	-	-	○	B011		
西原	第5次	我孫子市日秀	-	-	○	-	-	L134		
				-	-	○	-	-	L136	
布佐・余間戸		我孫子市布佐余間戸	-	-	○	-	-	M027		
我孫子中学校校庭		我孫子市高野山	-	-	○	-	○	L133		
別当地	第3次 第4次 第5次 第6次 第7次 第10次	我孫子市中里	-	-	-	-	-	L130		
				-	-	-	-	-	L139	
				-	-	○	-	-	L132	
				-	-	○	-	-	L139	
				-	-	○	-	-	L137	
			-	-	○	-	-	L139		
大久保		我孫子市中峠	-	-	○	-	-	L131		
高根		我孫子市中峠	-	-	○	-	-	L135		
野守	第5次	我孫子市野守	-	-	○	-	-	L138		
水砂		柏市大青田	-	-	○	-	-	B014		
花前Ⅰ		柏市船戸	-	-	○	-	-	B024		
花前Ⅱ-1		柏市船戸	-	-	○	-	-	B014,B029		
花前Ⅱ-2		柏市船戸	-	-	○	-	-	B029		
中馬場	第3次 第4次	柏市根戸	-	-	○	-	-	M004		
				-	-	○	-	-	M008	
高野台		柏市高野台	-	-	○	-	-	L103		
殿台	C地区	柏市布施	-	-	○	-	-	M019		
宿ノ後		柏市宿ノ後	-	-	○	-	-	L101		
鴻ノ巣		柏市鴻ノ巣	-	-	○	-	-	L102		
三輪野山Ⅱ	県七 流山市	流山市三輪野山	-	-	○	-	-	A005		
				-	-	○	-	-	B079	
桐ヶ谷新田		流山市西初石	-	-	○	-	-	M020		
加村台	F地点	流山市加	-	-	○	-	-	L114		
北谷津第Ⅱ		流山市加	-	-	○	-	-	L111		
町畑	A地点	流山市加	-	-	○	-	-	L112,L113		
	F地点		-	-	○	-	-	L115		

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
大谷口小金城跡		松戸市大谷口	-	-	○	-	-	L071	
河原塚古墳		松戸市河原塚	-	-	○	-	-	M002	
大井東山		東葛飾郡沼南町大井	-	-	○	-	○	B044	
大井大畑		東葛飾郡沼南町大井	-	-	○	-	-	B044	
六釜内		東葛飾郡沼南町大井	-	-	○	-	-	L191	
双賀辺田No.1		鎌ヶ谷市中沢	-	-	○	-	-	L141	
須和田		市川市須和田	-	-	-	-	○	L035,m001,N001	
権現原		市川市北国分町	-	-	○	-	-	N001	
下総国分		市川市国分	-	-	○	-	-	L032,L033,M005	
下総国分僧寺跡		市川市国分	-	-	○	-	-	L034	
不入斗		市川市国分	-	-	○	-	-	N002	
市宮総合運動場		市川市国府台	-	-	○	-	-	L031	
山ノ後		市川市宮久保	-	-	○	-	-	L032	
海神町		船橋市海神町	-	-	-	-	○		
本郷台		船橋市西船	-	-	○	-	-	M021,M035	
印内		船橋市印内町	-	-	○	-	-	A002	
東中山台	11	船橋市東中山台	-	-	○	-	-	J004	
	12	-	-	-	○	-	-	J005	
	14次	船橋市西船	-	-	○	-	-	B106	
印内台	(19)	船橋市西船	-	-	○	-	○	J001	
	(22)	-	-	-	○	-	-	J003	
	(24)	-	-	-	○	-	-	J002	
	1次	-	-	-	○	-	-	M025	
	4次	-	-	-	○	-	-	M060	
	7次	-	-	-	○	-	-	M057	
	8次	-	-	-	○	-	-	M057	
夏見台	3次	船橋市夏見町	-	-	○	-	-	L041	
	4次	-	-	-	○	-	-	M009	
	-	-	-	-	○	-	-	M030	
夏見大塚	3次	船橋市夏見町	-	-	○	-	-	L043	
		-	-	-	○	-	-	L044	
外原		船橋市喜野井町	-	-	○	-	-	L042	
小室		船橋市小室	-	-	○	-	-		
鳴神山		印西市戸神	-	-	○	-	-	B100	
鳴神山Ⅱ		印西市戸神	-	-	○	-	-	B108	
西根		印西市戸神	取水堰(古墳),水路(古墳,平安)	○	-	-	-	b006,b007	
駒形北		印西市駒形	-	-	○	-	-	F020	
小林城跡		印西市小林	-	-	-	-	○	B075	
権現後		八千代市董田	-	-	○	-	-	B023,B071	
北海道		八千代市董田	-	-	○	-	-	B028,B071	
井戸向		八千代市董田	-	-	○	-	○	B042	
		-	-	-	○	-	-	B071	
白幡前		八千代市董田	-	-	○	-	-	B060	
上の台		八千代市董田	-	-	○	-	-	B072	
島田込ノ内		八千代市島田	-	-	○	-	-	B092	
村上込ノ内		八千代市村上	-	-	○	-	-	A003	
出口		四街道市出口	-	-	○	-	-	F019	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
木戸先		四街道市木戸先	-	-	○	-	-	F027	
入の台第2		四街道市長岡	-	-	○	-	-	L171	
中山		四街道市和良比	-	-	○	-	-	F002	
和良比		四街道市和良比	-	-	○	-	-	F011,F012,F013	
江原台Ⅰ		佐倉市白井田	-	-	○	-	○	L083	
江原台Ⅱ		佐倉市白井田	-	-	○	-	-	B009	
江原台第1	県セ 印旛郡市	佐倉市白井田	-	-	○	-	-	B003	
			-	-	○	-	-	L084	
白井田小笹台		佐倉市白井田	-	-	○	-	-	F026	
白井南		佐倉市白井	-	-	○	-	-	M006	
白井城跡		佐倉市白井	-	-	-	-	○	L086	
大作		佐倉市神門	-	-	○	-	-	B055	
松向作		佐倉市大作	-	-	○	-	-	B065	
南広		佐倉市宮本	-	-	○	-	-	B069	
宮本宮後	B地区	佐倉市宮本	-	-	○	-	-	F015	
六拾部	県セ 佐倉市	佐倉市大作	-	-	○	-	-	B078	
			-	-	○	-	-	L087	
高岡砦		佐倉市高岡	-	-	○	-	-	B080	
高岡		佐倉市高岡	-	-	○	-	-	F021,F022,F023,F024	
高崎新山		佐倉市高崎	-	-	○	-	-	F001	
寺崎向原		佐倉市寺崎	-	-	○	-	-	M034	
坂戸		佐倉市坂戸	-	-	○	-	-	M047	
清水作		佐倉市坂戸	-	-	○	-	-	M047	
鑪木諏訪尾余		佐倉市鑪木	-	-	○	-	-	M039	
将門鹿島台		佐倉市将門	-	-	○	-	-	L081	
岩富漆谷津		佐倉市岩富	-	-	○	-	-	L085	
岩富町木戸		佐倉市岩富	-	-	○	-	-		
志津西ノ台		佐倉市志津	-	-	○	-	-	M010	
直弥田屋		佐倉市直弥	-	-	○	-	-	L087	
古屋敷		佐倉市古屋敷	-	-	○	-	-	L082	
大崎台		佐倉市大崎台	-	-	○	○	-	M043	
公津原Loc14		成田市中台	-	-	○	-	○	B013	
公津原Loc17		成田市郷部	-	-	○	-	-	B013	
公津原Loc20		成田市山口	-	-	○	-	-	B013	
公津原Loc29		成田市八代	-	-	○	-	-	B013	
公津原Loc40		成田市八代	-	-	○	-	-	B013	
堀之内		成田市堀之内	-	-	○	-	-	B016	
野毛平高台		成田市野毛平	-	-	○	-	-		
木戸下		成田市野毛平	-	-	○	-	-	B057	
飯仲金堀		成田市飯仲	-	-	-	-	○	F025	
妙福寺裏		成田市大山	-	-	○	-	-	B030	
鳥内		成田市松崎	-	-	○	-	-	B035	
畑ヶ田新林		成田市畑ヶ田	-	-	○	-	-	B052	
畑ヶ田花山		成田市畑ヶ田	-	-	○	-	-	B052	
山口富士		成田市玉造	-	-	○	-	-	B049	
園護台		成田市園護台	-	-	○	-	-	F008,M059	
南園護台	第1地点	成田市園護台	-	-	○	-	-	F033	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
上福田向台		成田市上福田	-	-	○	-	-	F029	
小菅法華塚Ⅱ		成田市小菅	-	-	○	-	-	F030	
小菅石神Ⅱ		成田市小菅	-	-	-	○	-	#001	
宗吾内野台畑		成田市宗吾	-	-	○	-	-	F036	
宗吾西鷺山		成田市宗吾	-	-	○	-	-	M049	
大袋腰巻		成田市大袋	-	-	○	-	-	F037	
南羽鳥中ノ岫	第1F地点	成田市南羽鳥	-	-	○	-	-	F038	
東和田(川栗)	2次	成田市川栗	-	-	○	-	-	F039	
入谷		成田市入谷	-	-	○	-	-	M003	
東峰御幸畑西		成田市東峰	-	-	-	-	○	B107	
神々廻宮前	B地点	白井市神々廻栗原	-	-	○	-	-	F003	
伊篠白幡		印旛郡酒々井町伊篠	-	-	○	-	-	B040	
伊篠越徳		印旛郡酒々井町伊篠	-	-	○	-	-	M036	
尾上藤木	C地区 D地区	印旛郡酒々井町尾上	-	-	○	-	-	F009	
尾上出戸		印旛郡酒々井町尾上	-	-	○	-	-	F007	
墨新山		印旛郡酒々井町墨	-	-	○	-	-	F014	
長勝寺脇館跡		印旛郡酒々井町	-	-	-	-	○	F035	
北押出し		印旛郡酒々井町本佐倉	-	-	-	-	○	F010	
岩戸広台	A地区 B地区	印旛郡印旛村岩戸	-	-	○	-	-	M038	
油作第1	Ⅱ	印旛郡印旛村油作	-	-	○	-	-	F004	
吉高浅間古墳		印旛郡印旛村吉高	-	-	○	-	-	F004	
平賀細町		印旛郡印旛村平賀	-	-	○	-	-	F016	
久能高野		印旛郡富里町久野	-	-	○	-	-	F031	
龍角寺ニュータウン		印旛郡栄町龍角寺	-	-	○	-	-	F028	
大畑Ⅰ		印旛郡栄町龍角寺	-	-	○	-	-	F034	
大畑Ⅰ-2		印旛郡栄町龍角寺	-	-	○	-	-	F005	
殖生郡街		印旛郡栄町龍角寺	-	-	○	-	-	M031	
殖生郡街Ⅱ		印旛郡栄町龍角寺	-	-	○	-	-	B033	
大台		印旛郡栄町大台	-	-	○	-	-	B034	
敷内		印旛郡栄町敷内	-	-	○	-	-	B041	
酒直		印旛郡栄町酒直	-	-	○	-	-	B046	
小台		印旛郡栄町木塚	-	-	○	-	-	F017	
宮内		印旛郡本埜村宮内	-	-	○	-	-	F018	
吉原山王		佐原市丁子	-	-	○	-	-	M046	
長部山		佐原市香取	-	-	○	-	-	M028	
青山中峰		香取郡下総町青山	-	-	○	-	-	F032	
青木富ノ木		香取郡下総町青山	-	-	○	-	-	B058	
名木天神台		香取郡下総町名木	-	-	○	-	-	H001	
名木大台		香取郡下総町名木	-	-	○	-	-	B076	
中里西口		香取郡下総町中里	-	-	○	-	-	B103	
西大須賀コモ田		香取郡下総町大須賀	-	-	○	-	-	B104	
大菅向台		香取郡下総町大菅	-	-	○	-	-	B088,M032,M040	
遠々地・上敷		香取郡下総町大菅	-	-	○	-	-	H002	
阿玉台北		香取郡小見川町五郷	-	-	○	-	○	H007	
								M054	
								L201	
								A007	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
妙見堂		香取郡小見川町織幡	-	-	○	-	-	H004,M055	
馬洗城址		香取郡大栄町松子	-	-	○	-	○	L231	
岩部		香取郡栗原町岩部	-	-	○	-	-	H005	
谷津坂		香取郡栗原町岩部	-	-	○	-	-	L221	
仲台		香取郡神崎町大貫	-	-	○	-	-	H006	
大平		香取郡神崎町	-	-	○	-	-	L211	
南借当		香取郡多古町南借当	木樋(古代?)	○	○	-	-	B062	
仲ノ台		香取郡多古町多古	-	-	○	-	-	H003	
大原		香取郡多古町喜多大原	-	-	○	-	-	M051	
栗島台		銚子市栗島町	-	-	○	-	-	L023	
長塚十二山		銚子市長塚	-	-	○	-	-	M052	
大宮戸大新田	1地点	銚子市三崎町	-	-	○	-	-	L022	
野尻		銚子市野尻	-	-	-	-	○	L021	
岩井安町	県七 東総	海上郡海上町岩井	-	-	○	-	-	B074	
			-	-	○	-	-	K001	
池尻		匝瑳郡干潟町清和甲	-	-	○	-	-	B081	
道木内		匝瑳郡干潟町清和甲	-	-	○	-	-	B085	
桜井平		匝瑳郡干潟町桜井	-	-	○	-	-	B089	
小川台		匝瑳郡光町小川台	-	-	○	-	-	M053	
篠本城跡(神山谷)		匝瑳郡光町篠本	-	-	○	-	○	K004	
芝崎		匝瑳郡光町芝崎	畑(古代)	-	-	-	-	N009,k002,k003	
新城		八日市場市イ	-	-	-	-	○	K003	
飯倉鈴歌		八日市場市飯倉	-	-	○	-	-	M061	
生尾		八日市場市生尾	-	-	○	-	-	K002	
柳台		八日市場市飯塚	-	-	○	-	-	L091	
吉田		八日市場市吉田	-	-	-	-	○	k001	
長倉宮脇		山武郡横芝町長倉	-	-	○	-	-	L251	
八田太田台		山武郡松尾町八田	-	-	○	-	-	B045	
井上A		山武郡山武町埴谷	-	-	○	-	-	L241	
入谷		山武郡山武町椎崎	-	-	○	-	-	M050	
野出山		山武郡山武町椎崎	-	-	○	-	-	M050	
栗橋棒		山武郡山武町矢部	-	-	○	-	-	B093	
小川崎台		山武郡山武町下田	-	-	○	-	-	B101	
古内		山武郡山武町森	-	-	○	-	-	G003	
田向城跡		山武郡芝山町小池	-	-	○	-	-	G004	
小池麻生		山武郡芝山町小池麻生	-	-	○	-	-	B020	
小池地蔵		山武郡芝山町小池地蔵	-	-	○	-	-	B032,B061	
小池元高田		山武郡芝山町小池元高田	-	-	○	-	-	B037	
御田台		山武郡芝山町小池元高田	-	-	○	-	-	B064	
No.2		山武郡芝山町岩山	-	-	○	-	-	B031	
上宿		山武郡芝山町岩山	-	-	○	-	-	B097	
宮門		山武郡芝山町大台	-	-	○	-	-	B061	
洞谷台		山武郡芝山町朝倉	-	-	○	-	-	B105	
庄作(小原子)		山武郡芝山町庄作	-	-	○	-	-	M058	
上楽(小原子)		山武郡芝山町上楽	-	-	○	-	-	M058	
谷窪(小原子)		山武郡芝山町谷窪	-	-	○	-	-	M058	
清水		山武郡芝山町大宮	-	-	○	-	-	M022	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
久我台		東金市松之郷	-	-	○	-	○	B047	
妙経		東金市松之郷	-	-	○	-	-	B073	
南外輪戸		東金市松之郷	-	-	○	-	-	M044	
海老ヶ谷(東金台)		東金市松之郷	-	-	○	-	-	M026	
海老ヶ作(東金台)		東金市松之郷	-	-	○	-	-	M026	
中谷(東金台)		東金市松之郷	-	-	○	-	-	M026	
平蔵台		東金市松之郷	-	-	○	-	-	L001	
油井古塚原		東金市油井	-	-	○	-	-	G005	
作畑		東金市油井	-	-	○	-	-	M048	
道円坊		東金市山田	-	-	○	-	-		
山田水呑		東金市山田	-	-	○	-	○	M011	
小油井台		東金市豆谷	-	-	○	-	-		
小野(小野山田)	第1地点	東金市小野	-	-	-	-	○	G006	
鉢ヶ谷(小野山田)		東金市小野	-	-	○	-	-	G006	
一本松		山武郡大網白里町餅の木	-	-	○	-	-	B084	
宮台		山武郡大網白里町釜野	-	-	○	-	-	G001	
中林		山武郡大網白里町中林	-	-	○	-	-	G002	
一本松		山武郡大網白里町小西	-	-	○	-	-	G007	
升形		山武郡大網白里町小西	-	-	○	-	-		
金谷野		山武郡大網白里町金谷郷	-	-	○	-	-		
菊間		市原市菊間	-	-	○	-	-	A004	
新皇塚古墳		市原市菊間	-	-	○	-	-	A004	
草刈	1号墳	市原市草刈	-	-	○	-	-	B083	
草刈	K区	市原市草刈	-	-	-	-	○	未発表	
草刈六之台		市原市草刈	-	-	○	-	○	B070	
西野		市原市西野	-	-	○	-	-	B054	
白山		市原市村上	-	-	○	-	-	B054	
村上		市原市村上	耕作痕(古代)	-	○	-	-	B086	
今富		市原市今富	-	-	○	-	-	B094	
今富新山		市原市今富	-	-	○	-	-	B099	
番後台		市原市養老	-	-	○	-	-	B015	
片又木		市原市不入斗	-	-	○	-	-	D001	
上総国分尼寺		市原市国分寺台	-	-	-	-	○		
郡本		市原市郡本	-	-	○	-	-	D002	
下給野		市原市潤井戸	-	-	○	-	-	D003	
下ヶ谷台		市原市大作	-	-	○	-	-	D004	
千草山		市原市能満	-	-	○	-	○	D005	
文作		市原市葉木	-	-	○	-	○	D006	
椎津茶ノ木		市原市椎津	-	-	○	-	○	D007	
安須古墳群	2号墳	市原市安須	-	-	○	-	-	D008	
燼木小谷		市原市燼木	-	-	○	-	-	L121	
市原条里制	並木地区 実信地区 菊間地区 郡本地区 村田川橋岡 県スタ	市原市菊間,市原,郡本,藤井	小区画水田(弥生),水路(弥生中期)	-	-	-	○	B098	
			水路(弥生中期)	○	-	-	-	B098,N007	
			条里型水田(古代)	-	-	-	-	B098	
			条里型水田(古代)	-	-	-	-	B098	
			条里型水田(古代)	-	-	-	-	B098	
			小区画水田(弥生),条里型水田(古代),水路(弥生中期)	○	-	-	○	b005,N008	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
五所四反田		市原市五所	水路(古墳中期)	○	-	-	-	d001	
毛尻		市原市毛尻	-	-	○	-	-	M037	
南総中学校	2号墳	市原市江子田	-	-	○	-	-	M015	
萩ノ原		市原市上高根	-	-	○	-	-	M012,M014	
神納三俣台		袖ヶ浦市神納	-	-	○	-	-	C030	
鼻欠		袖ヶ浦市神納	-	-	○	-	-	M041	
雷塚		袖ヶ浦市神納	-	-	○	-	-	C036	
三王台		袖ヶ浦市神納	-	-	○	-	-	L182	
金井崎		袖ヶ浦市神納	-	-	○	-	-	c101	
谷ノ台		袖ヶ浦市神納	-	-	-	-	○	C032	
文籃		袖ヶ浦市野里	畑(~古墳後期)	-	○	-	-	B077,C016	
清水井		袖ヶ浦市高谷	-	-	○	-	-	C021	
荒久(2)		袖ヶ浦市高谷	-	-	-	-	○	B090	
清水川台		袖ヶ浦市代宿	-	-	○	-	-	C001	
上大城		袖ヶ浦市久保田	-	-	○	-	-	C023	
境	2次	袖ヶ浦市下新田	-	-	○	-	-	C002	
			-	-	-	-	○	C008	
西ノ窪		袖ヶ浦市下新田	-	-	○	-	-	M042	
西久保下		袖ヶ浦市藤波	-	-	○	-	-	C035	
向山野B		袖ヶ浦市藤波	-	-	○	-	-	L181	
西ノ谷下		袖ヶ浦市藤波	-	-	○	-	-	L181	
寒沢	第1地点	袖ヶ浦市永吉	-	-	○	-	-	C026	
遠寺原		袖ヶ浦市永吉	-	-	○	-	-	C003	
西寺原		袖ヶ浦市永吉	-	-	○	-	-	C003	
東郷台		袖ヶ浦市川原井	-	-	○	-	-	C005	
樋爪		袖ヶ浦市川原井	-	-	○	-	-	M023	
滝の口向台		袖ヶ浦市滝ノ口	-	-	-	-	○	B068	
二又堀		袖ヶ浦市大竹	-	-	○	-	-	C019	
三ツ田台		袖ヶ浦市大竹	-	-	○	-	-	C012	
西原Ⅱ		袖ヶ浦市永地	-	-	-	-	-	L183	
田向		木更津市江川	耕作痕(古墳前期),畑(古墳前期,古代)	-	-	-	-	b007	
大寺	No.1地点	木更津市大寺	小区画水田(古墳後期)	-	-	-	-	c002	
	No.8地点	木更津市下望陀	条里型水田(古代)	-	-	-	-	c002	
	No.9地点		小区画水田(古墳後期),条里型水田(古代)	-	-	-	-	c002	
芝野		木更津市下望陀	小区画水田(弥生後期)	○	-	-	-	B109	
菅生	調査会 H4-7 H9	木更津市菅生	水路(古墳)	○	○	-	○	M024	
			小区画水田(弥生後期~古墳後期),条里型水田(古代,中世~)	-	-	-	-	B095	
			小区画水田(弥生後期~古墳前期)	-	-	-	-	c003,L056	
高千穂古墳群	4号墳	木更津市菅生	-	-	○	-	-	C006	
	9号墳		-	-	○	-	-	C006	
四宝塚		木更津市長須賀	条里型水田(平安~)	-	-	-	-	B110	
四留作第1古墳群	13号墳	木更津市笹子	-	-	○	-	-	L058	
四留作第2古墳群	1号墳	木更津市笹子	-	-	○	-	-	C013	
花山		木更津市矢那	-	-	○	-	-	C007	
マミヤク		木更津市小浜	-	-	○	-	○	C009	
西ノ入	1号墳	木更津市中尾	畑(古墳後期)	-	-	-	-	c002	
	2号墳		畑(古墳前期)	-	-	-	-	L054	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
舘西		木更津市舘西	—	—	○	—	—	L002	
大山台		木更津市舘西	—	—	○	—	—		
塚原(千束台)	24号墳	木更津市舘西	畑(古墳後期)	—	—	—	—	c002	
	25号墳		畑(古墳後期)	—	—	—	—	c002	
	26号墳		畑(古墳後期)	—	—	—	—	c002	
高部古墳群(千束台)	30号墳	木更津市舘西	畑(弥生後期)	—	—	—	—	L060	
	31号墳		畑(弥生後期)	—	—	—	—	L060	
	32号墳		畑(弥生後期)	—	—	—	—	L060	
鹿島塚古墳群	6号墳	木更津市舘西	—	—	○	—	—	C011	
鹿島塚A		木更津市舘西	—	—	—	—	○		
鹿島塚B		木更津市舘西	—	—	○	—	—	L052	
大畑台		木更津市舘西	—	—	○	—	○	L055	
中台		木更津市舘西	—	—	○	—	—	L059	
小谷		木更津市舘西	—	—	○	—	○	L057	
野焼A		木更津市舘西	—	—	○	—	—		
山伏作		木更津市舘西	—	—	○	—	○	L053	
銭賦		木更津市舘西	畑(古墳後期)	—	—	—	—	L061	
沢間		木更津市下部	畑(弥生後期,古墳～古代)	—	—	—	—	b006	下層は確認のみ
久野		木更津市草敷	—	—	○	—	○	B102	
真里谷城跡		木更津市真里谷	—	—	—	—	○	L051	
中郷谷		木更津市	—	—	—	—	○	L054	
岩出		君津市岩出	—	—	○	—	—	B036	
天神台		君津市上	小区画水田(弥生後期～古墳前期)	—	—	—	—	L153	
八幡神社古墳		君津市外箕輪	条里型水田(古代～)	—	—	—	—	B059	
外箕輪	国道127 (II) (III) (IV)	君津市外箕輪	条里型水田(古代～)	—	—	—	○	B059	
			条里型水田(古代～)	—	—	—	—	C029	
			条里型水田(古代)	—	—	—	—	C034	
			小区画水田(古墳中期),条里区画水田(古代)	—	—	—	—	c004	
常代	区画整理	君津市常代	畑(古墳後期),堰(弥生中期)	—	○	—	○	C025,C033	
	国道127		堰(弥生中期),小区画水田(古墳)	—	—	—	—	b005,b006	
郡条里	国道127	君津市郡	小区画水田(弥生～古墳)	—	—	—	—	b006	
	区画整理		水路(古代?)	—	—	—	—	C010,C017,C020	
郡	区画整理	君津市郡	—	○	—	—	○	C027,L151,L152	
	江川		小区画水田(～古墳後期)	—	—	—	—	B063	
	国道127		水田耕作土(古墳)	—	—	—	—	b006	
小山野		君津市小山野	小区画水田(古墳),条里型水田(古代,中世)	—	—	—	—	b007	
三直中郷	中郷地区 沖田地区 坂ノ下地区 君津都市	君津市三直	小区画水田(古墳?)	—	—	—	—	b005	
			畦畔(古墳)	○	—	—	—	b005	
			畦畔(古墳),水路(弥生?)	○	—	—	—	b006	
			条里型水田(平安)	—	—	—	—	C037	
八重原	1号墳	君津市三直	—	—	○	—	—	N005	
本名輪		君津市坂田	—	—	—	—	○	C004	
青柳下原	(3)	君津市青柳	条里型水田(古代)	—	—	—	—	c003	
俵田荒久	(3)	君津市俵田	条里型水田(古代)	—	—	—	—	c003	
南子安金井崎		君津市南子安	—	—	○	—	—	C028	
川島	465号 君商	富津市西大和田	—	—	○	—	—	B096	
			—	—	○	—	—	C015	

遺跡名	地区等	所在地	遺構	関連遺物				文献	備考
				木製品	鉄製品	石器	種子		
内裏塚古墳		富津市二間塚	-	-	○	-	-	c001	
打越		富津市下飯野	-	-	○	-	-	C014	
狐塚		富津市青木	-	-	○	-	-	C024	
亀塚	II	富津市青木	-	-	○	-	-	C031	
			畑(平安)	-	-	-	-	L161	
下北原		富津市下北原	-	-	-	-	○	C018	
花輪上原		富津市花輪	小区画水田(古墳)	-	-	-	-	未発表	
町田		富津市岩坂	水田(平安)	-	-	-	-	b005	
国府関		茂原市国府関	流路(弥生~古墳)	○	-	-	-	E003	
内野第II(柱)		茂原市柱	-	-	○	-	-	E001	
中原		茂原市猿袋	-	-	○	-	-	E004	
千代丸・力丸横穴群		長生郡長柄町力丸	-	-	○	-	-	E002	
下手II		長生郡長柄町	-	-	○	-	-	L261	
万喜城跡		夷隅郡夷隅町	-	-	-	-	○		
田子台		安房郡鋸南町	-	-	-	-	○	M001	
恩田原		安房郡富山町恩田原	-	-	-	○	-	L271	
宝珠院		安房郡三芳村府中	-	-	○	-	-	B050	
長須賀条里制	A区	館山市下真倉	条里型水田(古代)	-	-	-	-	b001,N006	白形模造品等 白形模造品等
	B区		小区画水田(弥生後期~古墳前期),条里型水田(中世~)	-	-	-	-	b001,N006	
	C区		水路・祭祀跡(古墳)	○	-	-	-	b002	
	D区		水路・祭祀跡(古墳)	-	-	-	-	b003	
	E区		小区画水田(古墳),条里型水田(古代,中世~),水路・木樋・祭祀跡(古墳)	○	-	-	○	b005	
	F区		水路・祭祀跡(古墳)	-	-	-	○	b005	
県道		条里型水田(古代)	-	-	-	-	b006		
東田	B区	館山市上真倉	水路(古墳),祭祀跡(古墳)	-	-	-	-	b004,N009	鋤先形模造品(土製)
東山		館山市南条	小区画水田(弥生?),水路(古墳)	-	-	-	-	b006	
江田条里跡		館山市江田	条里型水田(古代)	○	-	-	-	M007	
小滝涼源寺		安房郡白浜町白浜	-	-	○	-	-	M056	模造品
中原条里跡		鴨川市東条	流路(弥生~)	-	○	-	-	M064	

2) 鉄製農耕具出土一覧

時期	遺跡名	市町村	遺構番号	鎌					穂柄具		鋤先		他	共伴遺物	備考	
				A	B	C	A-C	D	A	B	板状	U字				
縄文	馬洗城址	大栄町	14号住居址												鎌か疑問。流れ込み	
弥生後期	草刈六之台	市原市	60号住居				1								流れ込み	
古墳前期	1	桜井平	千歳町	598号跡(住居)	1											
		西ノ谷下	袖ヶ浦市	4号住居跡	1											報文では模造品
		荒久(1)	千葉市	整穴住居030	1											
		打越	富津市	200号住居址	1											
					210号住居址	1										
	2	下鈴野	市原市	18号住居跡	1											
		番後台	市原市	035B号住居跡								1				
				074A号住居跡	1											
		マミヤク	木更津市	107号住居址		1										
		三ッ田台	袖ヶ浦市	SI 025B号遺構(住居)	1											左鎌
		二又堀	袖ヶ浦市	SI 046(住居)								1				
				8号墳	1											
	寒沢1地点	袖ヶ浦市	SI 037(住居)	1												
	文島	袖ヶ浦市	408号住居址	1												
宿ノ後		44号住居跡	1													
2?	布佐・余間戸	我孫子市	130号址(住居)				1									
?	Loc40	成田市	046A-C号址		1											
古墳中期	1	草刈1号墳	市原市	第1主体部		1										
				第2主体部				1								
				墳丘内							1					
		中ノ台	多古町	SI -17(住居)												
		三王台	袖ヶ浦市	SA 050(住居)				1								
		種ヶ谷津	千葉市	104号整穴住居				1								左歯
		生実城跡	千葉市	6号住居跡				1								
		養輪	千葉市	018号住居址		1										
		鎌取	千葉市	018(住居)		1										
				045(住居)		1										
	南二重堀	千葉市	23号住居址				2									
	桐ヶ谷新田	流山市	古墳時代2号住居跡								1			砥石		
	2	安須古墳群	市原市	2号墳		1										木質遺存良好
		吉高浅間古墳	印旛村	吉高浅間古墳								1				模造品(鉄)
野焼A		木更津市	SI 196(住居)								1					
高岡		佐倉市	12号住居址				1									
			31号住居址		1											
直谷田屋		佐倉市	1号住居跡		1					1						
臼井田小笹台		佐倉市	1号住居址								1					
牛尾舁		千葉市	28号住居跡						1							
大森第2		千葉市	35号B住居址		1											
小室		船橋市	D215								1					
外原	船橋市	第10号住						1								
1-2	宮内	本埜村	(古)7号住居跡								1					
	四留作第2古墳群	木更津市	第1号墳								1					
	金井崎	袖ヶ浦市	275号址(古墳周溝)				1								石製模造品(有孔円板)	
	大井東山	沼南町	029号(住居)		1											